

認定NPO法人
市民セクターよこはま

■ 事業報告 2017 ■

2017年度（2017年4月～2018年3月）



～誰もが自分らしく暮らせるまち～

一人ひとりの市民が主人公として、
幸せと豊かさを実感できる市民社会の実現を目指して...

2017 年度事業報告書 目次

◆ 2017 年度を振り返って.....	P 4
----------------------	-----

◆ 運営に関する事項（法人総務）

（1）会員〔会員数・会員総会〕	P 6
-----------------------	-----

（2）理事会〔開催日・議題〕	P 6
----------------------	-----

（3）各団体・行政機関等の委員の受任	P 6
--------------------------	-----

（4）他団体の会員として	P 8
--------------------	-----

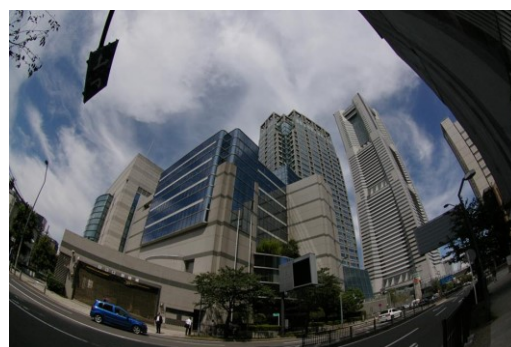
.....

◆ 事業に関する事項

◇ 市民活動支援事業

横浜市市民活動支援センター運営事業	P 9
-------------------------	-----

※別紙「事業報告 2017」参照



にしく市民活動支援センター運営事業	P 9
-------------------------	-----

※別紙「事業報告 2017」参照



NPO/NGO の組織基盤強化のためのワークショップ in 横浜	P 10
--	------

◇ 地域活動支援事業

- よこはま食事サービス連絡会 P 11
- 認知症ケア関連事業
 - ・ 認知症サポーターキャラバン P 13
 - ・ 認知症カフェ事業 P 13
 - ・ 認知症ケア実務者向け研修 P 16
- よこはま地域づくり大学校
 - ・ 第 6 期 泉区まちづくりみらい塾 P 17
 - ・ 第 6 期 西区地域づくり大学校 P 17
 - ・ 第 3 期 神奈川区地域づくり大学校 P 17
- 第 3 期 都筑区シニア★スター養成講座 P 17
- ヨコハマ市民まち普請事業 P 18
- NPO 法人横浜市小規模多機能型居宅介護事業者連絡会の事業事務局代行 P 20

◇ 市民の目を活かした評価事業

- ・ 福祉サービス第三者評価 P 21
- ・ 障がい者保養施設宿泊モニタリング P 22

◇ クロスセクター事業

- ・ 地域づくり大学校本校の企画検討会 P 23
- ・ スタディツアー（NPO・企業編） P 24

・ ・ ・ ・ ・

◆ 資料編

- (1) 会員数の推移 P 26
- (2) 収入額の推移と内訳 P 26
- (3) 市民セクターよこはま沿革 P 27
- (4) 2017 年度の役員・事務局スタッフ P 28

2017 年度を振り返って

理事長 中野 しずよ

中期ビジョン実現に向けた初年度は、「非営利・企業・行政の各セクターが、垣根を越えて課題解決に向けて協力し合うことに挑戦する体制」を整える年となりました。

1. 人・資金・知恵が集まる「プラットフォームづくり」という視点を持って、体制づくりの第一段階を進めました。

これからの当法人のあり方として、さまざまな課題解決に向けたプロジェクトが持ち込まれ、自由闊達な議論が生まれ、プランが揉まれる環境をつくることを目指しています。そこで 2017 年度は、中間支援機能をもつ 10 団体が連携した相談事業の体制づくりに力をいれ、2018 年度につなげました。

2. 「楽しくやりがいのあるチームづくり」という視点を持って若手職員の可能性を拡げ、プロジェクトリーダーとしての資質の開花に努めました。

中間支援組織の職員として、今年 3 年～9 年のキャリアを重ねた若手職員が、今後課題解決につながる多様な主体が連携したプロジェクトのとりまとめ役が担えるよう、司会、講義、ワークショップのデザイン、合意形成の調整役などの経験を積みました。

3. 新市庁舎「市民協働・共創スペース」運営への参画を目指し、準備を進めました。

2020 年開設予定の新市庁舎内「市民協働・共創スペース」は当法人が目指す協働型で課題解決を行う機能がその一部に想定され、横浜市市民活動支援センター機能の一部も引き継がれます。

具体的には、運営イメージについて、市民局からの正式なヒアリングがありましたので、2020 年以降を想定し、これまで準備を進めてきた内容や空間の使い方について提案を行いました。

また今後連携をさらに深めていきたい団体との接点を多くし、お互いの考えを知る機会を意識してつくりました。

4. 活動の当事者が相互に学び合い・支え合う環境づくりを行いました。

認知症ケア関連事業、地域づくり大学校事業、シニア☆スター養成講座において、活動の実践者が主体になって、講座終了後もその力を存分に活かし活躍できるよう、地域ケアプラザ・各区の支援センター・区役所等が継続的にフォローする体制を目指し、さまざまな働きかけを行いました。

また当法人設立とほぼ同時に始めました食事サービス連絡会について、役員の方々と話し合い、法人事業として、「人々が集い、互いに力を発揮できる場」の情報交換や学び合いの場としての再出発することとしました。2018 年度新規事業として、本格的に立ち上げをしていきたいと考えています。

5. ま と め

NPO法制定の翌年、介護保険開始の前年、在宅福祉活動を担う「助け合い」や「まちづくり」を理念とする団体が集まって学び合い、ネットワーク組織をつくりました。「誰もが人生の主人公として生きることができる社会」を目指し、少しずつ力を蓄えてきました。

一方、活動相談などを受ける中で、現実の状況を知ると、「道は遥か遠い」と感じる日々でもあります。しかし同時に多くの活動団体・組織の積み重ねを知り、幅広い団体と力を合わせていく信頼関係のベースもできつつあり、コーディネート幅も広がってきました。

さまざまな出来事や人に向き合い揉まれる中で、まだまだ力不足もありますが、若い職員が育ち、当法人のスピリットが次の世代へ引き継がれつつあることも大きな希望と感じています。

運営に関する事項（法人総務）

(1) 会員

● 会員数

2017 年 3 月 31 日時点：134

【正会員 122】団体 48/個人 78、【準会員 6】団体 3/個人 3、【賛助会員 6】団体 2/個人 4

↓

2018 年 3 月 31 日時点：137

【正会員 123】団体 41/個人 82、【準会員 8】団体 3/個人 5、【賛助会員 6】団体 2/個人 4

● 社員総会（会員総会）

日 時：2017 年 5 月 24 日（水）17:30～19:15

会 場：横浜市市民活動支援センター 4 階 ワークショップ広場

参加者：正会員：62 名（うち書面表決 13 名、委任状 26 名 ※正会員数 118 名）

第 15 回 通常総会

※各担当者による事業説明会を実施。

(2) 理事会

● 開催日

2017 年 ： 4 月 19 日、6 月 26 日、7 月 26 日、8 月 30 日、9 月 27 日、10 月 25 日
 11 月 29 日

2018 年 ： 1 月 31 日、2 月 28 日、3 月 28 日

● 議 題： 総会企画・議案、予算・決算、事業報告・計画、横浜市支援センター事業
 にしく支援センター事業、次年度組織体制、役員人事、職員の採用・給与・賞与、等

(3) 各団体・行政機関等の委員の受任

行政や社会へ提言、市民参画の拡大のため、さまざまな団体等の委員を引き受けています。

〔表彰〕

- ・ 市長表彰（社会福祉・保健医療の増進に協力援助された功績顕著な方への感謝状）（中野）

〔横浜市・健康福祉局〕

- ・ 横浜市社会福祉審議会 委員（中野）
- ・ 横浜市地域福祉保健計画策定・推進委員会 委員（中野）
- ・ 横浜市福祉有償移動サービス運営協議会 委員（中野）
- ・ 横浜市福祉サービス第三者評価推進委員会 委員（吉原）
- ・ 横浜市地域福祉保健計画策定・推進委員会 委員（竹谷）

〔横浜市・政策局〕

- ・ 横浜市男女共同参画審議会 委員（齋藤）

〔横浜市・こども青少年局〕

- ・ 横浜市親と子のつどいの広場事業選定委員会 委員（中野）

〔横浜市・温暖化対策統括本部〕

- ・ 横浜市環境未来都市計画懇談会 委員（中野）

〔横浜市・各区役所〕

- ・ 瀬谷区地域福祉保健計画策定懇談会委員（中野）

〔横浜市社会福祉協議会〕

- ・ 横浜市社会福祉協議会企画委員（中野）
- ・ 横浜市社会福祉協議会よこはまふれあい助成金運営委員会 委員（吉原）
- ・ 横浜市社会福祉協議会「福祉よこはま」編集委員（山野上）
- ・ 横浜市社会福祉協議会福祉ボランティア・市民活動部会 委員（山田）

〔その他〕

- ・ 公益社団法人かながわ福祉サービス振興会 理事（中野）
- ・ 男女共同参画公募事業 選定委員会 委員（中野）
- ・ NPO 法人横浜移動サービス協議会 評議員（中野）
- ・ 横浜市芸術文化振興財団ヨコハマアートサイト選考委員（松本）
- ・ かながわ協働推進協議会および、条例検討部会委員（吉原）
- ・ 横浜市こども青少年局ユースプラザ選定委員（吉原）
- ・ 男女共同参画センター横浜市民運営協議会 委嘱委員（井上）
- ・ 瀬谷区地域福祉保健計画懇談会委員（中野）
- ・ 瀬谷区社会福祉協議会 企画委員（中野）

〔講師等の受任〕

- ・ 移動サービス運転ドライバー安全運転講習（中野）
- ・ 西区サブコーディネーター研修会（中野）
- ・ 泉区社会福祉協議会 地区社協ミニ研修（中野）
- ・ 平成 29 年度港北区認知症キャラバン・メイトのつどいの講師（計 3 回）（井上）
- ・ NPO 法人会計税務専門家ネットワーク主催 税理士向け講座 講師（吉原）
- ・ 区支援センター新任者研修（4 月）・フォローアップ研修（2 月）講師（吉原）
- ・ 瀬谷区 NPO 入門講座 講師・ファシリテーター（吉原）
- ・ 磯子区 NPO 入門講座 講師・ファシリテーター（吉原）
- ・ 市民局地域活動推進課主催「協働研修基礎編」講師 3 回（吉原）
- ・ 日本 NPO センター行政との対話フォーラム分科会 講師（吉原）
- ・ 港北区区民施設交流会 講師・ファシリテーター（吉原）

- ・ 栄区施設連携会議&職員向け講座（12月） 講師・ファシリテーター（吉原）
- ・ 神奈川区施設連携会議 講師・ファシリテーター（吉原）
- ・ 西区施設間連携会議 講師・ファシリテーター2回（吉原）
- ・ 南区主催 施設間連携事業「まるごとみなみ」全体会講師・ファシリテーター2回（吉原）
- ・ 西区地域づくり大学校 6回連続講座 講師・ファシリテーター（吉原）
- ・ 神奈川区地域づくり大学校 6回連続講座 講師・ファシリテーター（吉原）
- ・ 都筑区主催シニア☆スター養成 6回連続講座&フォローアップ 2回講師・ファシリテーター（吉原）
- ・ 泉区まちづくりみらい塾 6回連続講座 講師・ファシリテーター（吉原）
- ・ こども青少年局ユースプラザ施設長向け 講師・ファシリテーター（吉原）
- ・ 行政への提案カススキルアップ道場 5回連続講座&説明会 講師・ファシリテーター（吉原）
- ・ つながりのまちづくりフォーラムディスカッションコーディネーター（吉原）
- ・ 横浜市危機管理センター主催 地域活動をすすめるための講座 2回（吉原）
- ・ みやぎ連携復興センター自治会長向け講座・ファシリテーター 2回（吉原）
- ・ 関東学院大学 松村氏授業にてNPOについての講座 講師（吉原）

(4)他団体の会員として

下記の団体に会員として参画しています。

- ・ 認定NPO法人 日本NPOセンター
- ・ NPO法人 シーズ・市民活動を支える制度をつくる会
- ・ 日本ファンドレイジング協会
- ・ 認定NPO法人 市民福祉団体全国協議会
- ・ 全国老人給食協力会
- ・ 公益社団法人 かながわ福祉サービス振興会
- ・ 社会福祉法人 横浜市社会福祉協議会
- ・ NPO法人税理士による公益活動サポートセンター
- ・ 神奈川県居住支援協議会
- ・ 一般社団法人 SDGs 市民社会ネットワーク

事業に関する事項

【 NPO 法人・市民活動支援事業 】

■ 横浜市市民活動支援センター運営事業

（横浜市市民局市民活動支援課との協働事業）

別紙「2017（平成 29）年度横浜市市民活動支援センター事業報告書」をご覧ください。

■ にしく市民活動支援センター（にしとも広場）運営事業

（横浜市西区役所との協働事業）

別紙「2017（平成 29）年度にしく市民活動支援センター事業報告書」をご覧ください。



にしとも広場の外観

■ NPO/NGO の組織基盤強化のためのワークショップ in 横浜

(共催：パナソニック株式会社・認定 NPO 法人日本 NPO センター)

成果と課題

認定 NPO 法人 NPO センター（以下、NPO センター）とパナソニック株式会社（以下、パナソニック）が、各地の中間支援組織との協働で実施している「NPO/NGO の組織基盤強化のためのワークショップ」について、2017 年度は全国 6 か所で開催され、横浜開催を、当法人含む三者協働で取り組みました。

● 成果（経緯）

既に活動を継続し実績を重ねている層の団体や、環境・国際等の分野の団体の参加があり、市の支援センターを通じた講座等とは異なる団体の方たちと、「組織基盤強化」の重要性について共有することができました。組織の基盤強化については、センター事業を通じても力を入れて取り組んでいましたが、NPO 支援において実績のある NPO センター、ファンド等を通じて組織基盤強化の面から NPO 支援を行ってきたパナソニックと共催することにより、さらに新たな層に対してもアプローチすることができました。

● 課題

市支援センターでは、基盤強化をねらいとする講座等の支援について、立ち上げ初期の団体を主な対象にして行っています。さらに異なる層の方たちと、組織の基盤強化に向けて学び合い高め合っていく機会を、他の支援機関と協働しながら法人事業として実施していくことが今後の検討課題です。

事業の概要と実施したこと

日 時：2017 年 6 月 2 日(金) 13：30～17：30

会 場：横浜市民活動支援センター セミナールーム 1・2

参加者：35 名（申込 46 名）

プログラム

13：30～ 趣旨説明

13：40～ 講座「組織基盤強化とは」

（講師 日本 NPO センター 今田 克司）

14：20～ 組織基盤の強化により発展につながった事例報告

- ・ 特定非営利活動法人こまちぶらす（発表：副代表 北本若葉さん）
- ・ 認定 NPO 法人エンパワメントかながわ（発表：池畑 博美 さん）

15：00～ ワークの説明 / 休憩

15：15～ 組織課題について考えるワークショップ(個人ワーク、グループワーク、共有)

進行：認定 NPO 法人市民セクターよこはま

17：00～ Panasonic NPO サポート ファンド紹介

17：30 まとめ・終了

【地域コミュニティの活動支援事業】

■ よこはま食事サービス連絡会 ※神奈川県共同募金 歳末たすけあい配分金

成果と課題

● 成果（経緯）

市内の食事サービスグループ同士の連携や情報共有、学びあいの場としての活動を行いました。

2000年に始まった連絡会は、開始以来ほぼ月1回の開催を続けています。

毎年2回開催している「食事サービスを考えるつどい」においては、1回目に昨年度から関心の高い薬膳について、調理実習をしながら学び合いました。2回目は、これからの地域づくりに欠かせない、みんなが気軽に集える場「コミュニティカフェ」について学び合いました。

いずれも交流の時間を持ち、食事サービス団体同士が情報交換や意見交換を行い、活動を長く続けるためのモチベーションを維持する場となっています。

さらに、2012年度から地域で「食」を通してまちづくり等を行っている現場を訪問し、主催者の話を聞き、課題や問題点を共有する新しい試みを始めました。2017年度は、金沢区の「もりのお茶の間」「釜利谷ふれあいカフェ」を訪問し、代表者から活動の成り立ちや、事業内容、組織体制、そしてこれからの向けての展望までお話を伺いました。

いずれも地域の中の居場所として開いているカフェはとても大きな意味を持ち、食を通じた交流の場として活用されていました。地域の課題解決や今後の活動を継続・発展させていくためのヒントがたくさんありました。

また、食事サービス活動も高齢者だけを対象にするものから、地域の子どもや障害者、外国につながる人など孤立しがちな方々を対象にした「食」を通じた地域の居場所づくりへと広がりを見せています。そのため連絡会として多くのセミナーや研修会に参加し、メンバーの皆様にその情報を届けることができました。

● 課題

多くの食事サービス団体の若い担い手の不足=高齢化が問題となっています。これからますます必要となる地域での高齢者への見守りとしての配食サービスや会食、サロン・カフェといった居場所に「食」をキーワードに関わっていくことが、担い手自身の介護予防や生きがいとなることを広く知っていただき、活動を元気にしていくために連絡会として何ができるかを考えていく必要があります。

事業の概要と実施したこと

市内の食事サービスグループ同士の連携や情報共有、学びあいの場としての活動を行いました。

1) 定例会：年間10回実施

2) 食事サービスを考えるつどい：2回実施

○ 薬膳講座「季節の食材を食べて元気になろう！」

講師：料理研究家・国際薬膳食育学会認定 和漢膳プロフェッサー・野菜ソムリエ プロ
山口直美氏

(2017年11月27日 於：JA クッキングサロン ハマッ子 / 参加者：30名)

○ 「食」を通じてつながる地域づくり

講師：子どもの未来サポートオフィス 代表 米田佐知子氏

(2018年3月3日 於：シェアリーカフェ / 参加者：20名)

3) 現場訪問：2018年1月26日 / 参加者：5名

○ 金沢区「もりのお茶の間」「釜利谷ふれあいカフェ」



▲ 食事サービスを考えるつどいの様子



▲ 現場訪問のようす

■ 認知症ケア関連事業

「認知症になっても住み慣れたまちで本人も家族も安心して暮らせるようなまちづくり」をめざして、ご本人と家族を温かく見守ることができるよう、認知症を正しく理解する場をつくるとともに、地域における居場所としての認知症カフェの取組みの推進に取り組みました。

成果と課題

【1】認知症サポーターキャラバン（横浜市健康福祉局との協働事業）

● 成果

- ・ 認知症サポーター養成講座をよりよくするための「認知症サポーター応援プロジェクト」として、2回の検討会を行いました。
- ・ 認知症キャラバン・メイト養成研修を4回実施し、244名の新しい認知症キャラバン・メイトを養成しました。
- ・ 本年度、市内で実施された認知症サポーター養成講座は、968回、合計43,346名の認知症サポーターが養成されました。
- ・ 昨年度に引き続き、「認知症キャラバン・メイト交流会」を実施しました。

● 課題

- ・ より一層、認知症サポーターキャラバン事業を発展させるために、実際に活動できる認知症キャラバン・メイトを増やす必要があります。認知症キャラバン・メイト養成研修の開催方法の工夫や、認知症キャラバン・メイトが研修を受けた直後に、地域の支援者や先輩メイトとつながるきっかけづくりを検討します。

【2】認知症カフェ事業

● 成果

2016年度の認知症カフェフォーラムに引き続き、認知症カフェ実践者が集い、学び合う場として情報交換会、認知症カフェ設立講座、フォーラムを実施しました。取り組みが徐々に広がるなか、互いの活動について知り合い、自らの場を振り返る機会となりました。また、これからカフェに取り組みたいと考えている方のきっかけの場となりました。

● 課題

「歩いて行ける範囲に認知症カフェがある」ためには、その取り組みが広がるとともに、場が継続していくことが大切です。ゆるやかにカフェ同士が繋がり合い、認知症の当事者本人が輝ける場について考え合う場づくりに引き続き取り組むことが課題です。

【3】認知症介護実務者向け研修

介護の専門職を対象とした本研修は、入職後、日が浅い方を主な対象とした連続講座としました。今回は、研修初日の基調講演に、長谷川診療所院長で精神科医の長谷川洋氏をお招きしました。「認知症の方本人に寄り添うケア」～認知症高齢者の医学的理解～では、長谷川式スケール、認知症の原因疾患、薬物治療についてなど医学的な考え方や、パーソンセンタードケアの必要性、BPSD 症状への適切な対応などを大変わかりやすく講義いただきました。初日に講演でしっかりと基本を理解した後、現場で活躍している講師陣による講義やグループワークで学んだ3日間は、施設での毎日のケアに直結するものとなりました。本人本位の視点をきちんと理解し、介護実務者としての軸に気づききっかけとして、今年度も、大変有効な研修になったと思われます。

また、本研修終了後のアンケートでは、講座内容について「大変よかった」「よかった」との評価が94%あり、満足度の高い研修となりました。全体を通して「認知症本人の方に寄り添うケア」についての基礎を理解する研修となりましたが、フォローアップ研修やステップアップ研修を望む声もあり、今後は、受講者に対する継続的なフォロー方法を検討する必要があります。



事業の概要と実施したこと

【1】認知症サポーターキャラバン

横浜市との協働事業として、認知症サポーターキャラバンの横浜市の事務局を担っています。日常的には、認知症キャラバン・メイトが認知症サポーター養成講座を実施するにあたってのサポートと計画書と報告書のとりまとめを行い、4回認知症キャラバン・メイト養成研修を実施しました。また、各区から認知症キャラバン・メイトと区役所担当職員と地域ケアプラザまたは区社会福祉協議会職員の3名が一緒に参加していただく「認知症キャラバン・メイト交流会」を実施しました。

※詳細は、別添の報告書をご覧ください。

【2】認知症カフェ事業

1) 横浜市内認知症カフェ情報交換会の実施

【日時】2017年6月29日（木）18:00～20:50

【会場】横浜市民活動支援センター 4階ワークショップ広場

【参加者数】39名

【内容】活動実践報告（6カフェ）、グループワーク、ワーキングの提案

2)「認知症カフェ設立講座～語り合い、立場を超えて一緒に過ごせるカフェづくり～」の実施

認知症カフェの設立に焦点をあて、認知症介護研究・研修仙台センターの矢吹知之先生を講師に、講座を実施しました。

【日時】2018年1月12日（金）10:00～16:15

【会場】横浜市市民活動支援センター 4階ワークショップ広場

【参加者数】59名

【プログラム】

○講義1『認知症と認知症カフェの理解』

○講義2『認知症カフェ運営・開設のコツ』

矢吹 知之 氏（認知症介護研究・研修仙台センター・東北福祉大学）

○グループワーク1『認知症カフェの軸を考える』



○グループワーク2『認知症カフェ設立のための実行プランシート』

吉原 明香 （認定 NPO 法人市民セクターよこはま）

○情報提供 助成金、横浜市の助成制度の紹介



3)「認知症カフェフォーラムもっともっとⅢ～私の大切な場所で、“なじみの関係”を続けよう～」の実施

誰もにとってなじみのある自分の大切な場所を、認知症になっても続けていくことをテーマに、フォーラムを実施しました。

【日時】2018年3月16日（金）17:30～20:30

【会場】横浜情報文化センターホール

【参加者数】127名（登壇者・運営スタッフ含む）

【プログラム】

講演 『フォローし合い支え合って、“なじみの関係”を続けよう』

井上 義臣氏（医療法人活人会 高齢者グループホーム横浜ゆうゆう 管理者
認定 NPO 法人市民セクターよこはま 理事）

実践報告1 『ご近所さん会』 加世田 恵美子 氏 （認定 NPO 法人市民セクターよこはま 理事）

実践報告2 『ころぼっくる&茶卓の取り組み』

山尾 宏子 氏 （NPO 法人有為グループ 顧問、NPO 法人歩々路 理事業）

実践報告3 『たすけあいが原点「つながること・寄り添う事」』

布川佐登美 氏（NPO 法人ケアラーネットみちくさ 理事長）

コメンテーター：井上 義臣 氏

コーディネーター：吉原 明香



3)「市民まちづくり応援ファンド」による助成

前年度の寄付金より拠出した「市民まちづくり応援ファンド」のうち、用途を指定されていないものを、「ひばり会（下和泉住宅自治会）」に助成しました。

【3】認知症ケア実務者向け研修

「認知症ケアの基本 ～日々のもやもや、これで解決！～」(全3回講座)

日時：2017年10月6日、11月6日、12月6日 10:00～17:00

第1回 基調講演「認知症の方本人に寄り添うケア」 長谷川 洋 氏

(長谷川診療所院長、精神科医)

○認知症ケアの歴史とこれからの認知症ケアを考える

第2回 ○本人の視点を磨く

○認知症の方本人に寄り添うケア実践編

～ひもときシートの活用方法 その1～

第3回 ○認知症の方本人に寄り添うケア実践編

～ひもときシートの活用方法 その2～

○認知症ケアの基本+α～認知症ケアに必要な知識・技能

＜メイン講師＞

・ 井上 義臣 氏 高齢者グループホーム横浜ゆうゆう

＜スーパーバイザー＞

・ 富田 克利 氏 ゆい藤ヶ丘 居宅介護支援

・ 長本 節子 氏 高齢者グループホーム横浜はつらつ

・ 村井 キヌエ 氏 横浜市総合保健医療センター

・ 村上 美如 氏 通所介護施設グロリアステイ



■ 第6期 泉区まちづくりみらい塾（泉区まちづくりみらい塾および横浜市泉区役所との協働事業）

別紙「2017（平成 29）年度泉区まちづくり未来塾 報告書」をご覧ください。

■ 第6期 西区地域づくり大学校（横浜市西区役所との協働事業）

別紙「2017（平成 29）年度西区市民活動支援センター 報告書」をご覧ください。

■ 第3期 神奈川区地域づくり大学校（横浜市神奈川区役所等との協働事業）

別紙「2017（平成 29）年度神奈川区地域づくり大学校 報告書」をご覧ください。

■ シニア★スター養成講座（横浜市都筑区役所・地域ケアプラザとの協働事業）

別紙「2017（平成 29）年度 都筑区シニアスター養成講座 報告書」をご覧ください。

■ ヨコハマ市民まち普請事業

（横浜市都市整備局地域まちづくり課、横浜市指定 NPO 法人アクションポート横浜との協働事業）

三者協働によるヨコハマ市民まち普請事業の事務局運営を行いました。

成果と課題

● 成果（経緯）

横浜市指定 NPO 法人アクションポート横浜、横浜市都市整備局地域まちづくり課との三者による協働運営は9年目に入りました。とくに、事業の周知では、横浜市市民活動支援センターを管理運営している立場から、区の市民活動支援センター職員が集う研修の場で、事業紹介の機会をつくりました。

● 課題

まち普請事業では、2015 年度から企業マッチングの取り組みが始まり、企業との連携を通じて成果を上げる整備箇所も見られるなど、市内におけるまちづくりの実践が積みあがってきました。今後も、市民主体のまちづくりにつながる制度として、多くの市民がチャレンジできるよう、事業の周知方法や、コンテストの実施方法等について検討を続けていくことが課題です。

事業の概要と実施したこと

「私たちのまちを、私たちがつくる！」そんな思いをカタチにするための地域協働のきっかけづくりとなる事業です。身近なまちのハード整備に関する提案を募集し、2回の公開コンテストで選考された提案に対して最高 500 万円の整備助成金が交付されます。

今年度、当法人では、主に、整備箇所現地視察、コンテストの運営補助（記録、設営・備品）および広報を行いました。

◆ 公開 1 次コンテスト

【日時】2017 年 7 月 8 日（土） 【会場】横浜みなとみらい 21 プレゼンテーションルーム
12 グループからの提案のうち、6 グループが 2 次コンテスト対象提案として選考されました。

◆ 平成 28 年度 整備箇所視察ツアー

【日時】2017 年 8 月 23 日（水）

まち普請事業 28 年度整備箇所の視察ツアーを企画・運営しました。

提案名	グループ名
【都筑区】 「東山田工業団地に案内板、掲示板、会社マークを設置」	つづきっず、はい！
【泉区】 「湧水を住民のいこいの場に！子どもたちに自然体験を！」	下和泉湧水を守る会
【金沢区】 「住民同士の輝き『人材マップ』を中心にした拠点づくり」	六浦東・まち交流ステーション委員会

◆ 公開２次コンテスト

【日時】2018年1月27日（土） 【会場】横浜市市民活動支援センター4階

公開コンテストの結果、以下の3提案が整備助成対象提案として決定しました。

提案名	グループ名
【青葉区】 太陽公園ローズサロン	荏子田太陽公園愛護会
【青葉区】 「百段階」を中心とした美しが丘地区遊歩道の整備	美しが丘アセス委員会 遊歩道ワーキンググループ
【泉区】 中田のえんがわ「宮ノ前テラス」多世代交流スペース	宮ノマエストロ

※ コンテスト業務のほか、まち普請事業部会や関連イベント（活動懇談会／企業マッチング会、H27整備成果報告会／まちづくりびと全員集合）に参加しました。

◆ まち普請事業に関する広報の取組み

制度やコンテストをはじめとする関連事業の広報として、以下の取組みを行いました。

○横浜市市民活動支援センターにおける事業を通じた広報

- ・ メールマガジン「アニマートピコ」：各イベント・応募案内
- ・ つながりのまちづくりフォーラム：フォーラムでのイベントの周知、情報コーナーの設置

○法人事業を通じた広報

- ・ 西区地域づくり大学校：まち普請事業の制度紹介
- ・ 都筑区シニア★スター養成講座：まち普請事業の制度紹介
- ・ 神奈川区地域づくり大学校：まち普請事業の制度紹介
- ・ 泉区まちづくりみらい塾：まち普請事業の制度紹介
- ・ 認知症カフェフォーラム：まち普請事業の制度紹介

■ NPO 法人横浜市小規模多機能型居宅介護事業者連絡会の 事業事務局代行

特定非営利活動法人横浜市小規模多機能居宅介護事業者連絡会は、横浜市内の小規模多機能居宅介護事業者の連絡連携ならびにその職員の資質の向上に資する事業をおこなっています。しかし、法人のメンバーが皆、各々の事業所に属しているため、NPO法人の事務局としての業務は、活動時間の捻出や作業場所の確保などの点から、スムーズな運営がしにくい状況にあります。昨年に引き続き、事業運営事務局の一部を受託しました。

成果と課題

● 成果

連絡会のホームページをアップしたり、セミナーの申込み受付の仕組みを整えるなど、連絡会の役員と連携して運営することができました。

● 課題

連絡会の正会員の状況確認や次年度に向けての更新がいまだ不十分です。理事長他メンバーと連携をとり、事業運営の情報共有、運営方法の検討、正会員の管理も担うことを検討します。

事業の概要と実施したこと

○ 連絡会

年 5 回の開催に関し、会場予約、参加申込受付、参加者名簿作成などを実施しました。

○ 横浜市委託事業のセミナー

年 5 回の開催に関し、セミナー案内チラシの作成、参加申込受付、参加者名簿作成、セミナー使用資料の印刷等準備などを実施しました。

○ ホームページ更新作業

会員施設の情報、連絡会やセミナーの開催日程・内容等について、ホームページを都度更新。更新に当たっては、役員と内容確認しながら進めました。

【市民の目を活かした評価事業】

■ 第三者評価事業

●福祉サービス第三者評価事業・指定管理者第三者評価事業

●障がい者保養施設宿泊モニタリング

成果と課題

● 成果（経緯）

今年度は、福祉サービスでは保育園を28件、指定管理では2件実施しました。事務局体制の充実と、調査員の質の高い調査・報告により、当法人に評価実施を感謝するコメントを多くいただきました。

● 課題

横浜市では、障がい分野や高齢分野での実施がいまだ少ない状況にある中、残念ながら、今年度は評価依頼がありませんでした。障がい施設や高齢施設こそ、サービスの質の向上のため、第三者評価は有効かつ必要と考え、健康福祉局の福祉サービス第三者評価推進委員会において委員として提言を行い、年度末の委員会にて、検討に入る旨の説明があり、一定の効果をあげました。引き続き、働きかけていきます。

事業の概要と実施したこと

<福祉サービス第三者評価事業>

福祉サービスの質の向上のために、横浜市の評価基準を使用して福祉施設の評価を行いました。評価の結果は公表するとともに、事業者（施設）との対話の中から、次のステップへの「気づき」が生まれることを目指しました。

【評価完了案件（順不同）】

分野	施設名	運営主体
保育	マイ・ハート綱島東保育園	株マイ・ハート
	洋光台中央福澤保育センター	社会福祉法人久遠会
	第二福澤保育センター	
	ポピンズナーサリー鶴見	株ポピンズ
	ポピンズナーサリー片倉町	
	ポピンズナーサリー小机	
	ベネッセ本郷台保育園	株ベネッセスタイルケア
	新桜ヶ丘保育園	社会福祉法人相愛会
	丸山台保育園	社会福祉法人白百合会
	白百合乳児保育園	
	上末吉保育園	

鳩の森愛の詩保育園	社会福祉法人はとの会
鳩の森愛の詩瀬谷保育園	
ふたば保育園	社会福祉法人和泉福祉会
合歓の木保育園	社会福祉法人神奈川県社会福祉事業団
明神台保育園	
みどり乳児園	特定非営利活動法人みどり乳児園
菊名愛児園	宗教法人日本基督教団横浜菊名教会
港南台つばさ保育園	特定非営利活動法人きずな会
キッズポケット	特定非営利活動法人キッズポケット
ナーサリー横浜ポートサイド	社会福祉法人和泉福祉会
にじいろ保育園コスモス	ライクアカデミー(株)
にじいろ保育園ポピー	
にじいろ保育園信濃町	
にじいろ保育園いずみ中央	
にじいろ保育園釜利谷	
にじいろ保育園本鵜沼	
にじいろ保育園鵜沼神明	

<指定管理者第三者評価事業>

施設名	運営主体
鶴ヶ峰コミュニティハウス	一般社団法人 あさひ区民利用施設協会
横浜市舞岡柏尾地域ケアプラザ	社会福祉法人横浜市福祉サービス協会

<障がい者保養施設宿泊モニタリング>

障がいのある方にとって、生活の質（ＱＯＬ）の向上を図る上で、「障がいのある方とその家族が安心してご利用いただけるくつろぎの空間」（パンフレット・HP より）である当該施設の存在は、地域社会の貴重な社会資源です。当該施設には、宿泊施設としての機能のほか、研修やレクリエーションなどを行う設備もあり、障がい者及び障がい教育・障がい福祉等の関係機関への周知が行き届き活用への意識が広がることは、施設の社会資源としての価値がより向上すると思われます。

昨年に引き続き、横浜移動サービス協議会にモニタリング調査を依頼し、障害ある方が、お一人で、またはヘルパー同行で３回に分けて実施されました。また昨年度に引き続き、当事者の方による職員研修も実施しました。職員の方一人ひとりが施設・自身の課題に気づき、当事者の方と直接コミュニケーションすることの大切さを実感した研修となりました。

【クロスセクター事業】

■ 地域づくり大学校本校の企画検討会

Y-college（地域づくり大学校）のカリキュラム検討するため、企画会を実施しました。

● 成果（経緯）

市内で活動する NPO、企業、行政職員の皆様にご参加いただき、有意義な意見交換の場、また企画のアイデアをいただく事ができました。

- ★「横浜のソーシャルの核となる人材」を養成する
- ★「目的」「目標」を見つめ直す機会→新たな問いを持つ
- ★「進化」「深化」する場（実践の場）
- ★「自立する自分」→「支え合う組織」→「社会変革」
- ★「協働の土台を作る」

● 課題

企画会にていただいた様々なご意見を集約し、今年度中に開催すべくカリキュラムを再検討する必要があります。

● 実施したこと

様々なセクターのリーダーに企画会に参加していただき、Y-college（地域づくり大学校）のカリキュラム企画会を3回に分けて実施しました。

■日時：2017年9月8日（金）、11日（月）、12日（火）

■場所：市民セクターよこはま事務所

【企画会メンバー】

- 梅原昭子さん（NPO 法人森ノオト 理事/事務局長/ライター）
- 男澤 誠さん（スリーハイ代表取締役社長）
- 江森克治さん（協進印刷 代表取締役社長）
- 大川哲郎さん（大川印刷代表取締役社長）
- 大川陽子さん（電通パブリックリレーションズ）
- 岡田雅子さん（ロアジスジャパン 代表取締役社長）
- 蟹江千里さん（横浜もの・まち・ひとづくり プロデューサー）
- 河原勇輝さん（太陽住建 代表取締役社長）
- 森祐美子さん（NPO 法人こまちぶらす 理事長）
- 相馬英樹さん（泉区白百合台自治会青年団 Fellows 代表）
- 永岡鉄平さん（NPO 法人フェアスタートサポート 理事長）
- 長田英史さん（NPO法人れんげ舎 代表理事）



企画会の様子



カリキュラムに対するご意見をいただき、全員でディスカッション



■ スタディツアー（企業・NPO 編） ※神奈川県 NPO 協働推進課との協働事業

神奈川県が実施しているパートナーシップ支援事業の一環として実施された事業。今回は、2か所の現場訪問、4つの実践報告を通じて、企業や NPO、施設、ボランティア団体等との連携・協働によって行われている、研修や地域・社会活動、就労マッチングの取組みを学びました。

成果と課題

● 成果（経緯）

ツアー全体を通じて、多様な主体が連携・協働することで、人と人、人と社会とのつながりが生まれ、それによって様々な価値や成果が見られていることが分かり、今後に向けたヒントを得ることができました。

現場から得られた気づき

- 「ボランティア体験」「若者の育ち」や「まちの美化」という切り口で、企業・福祉施設・支援機関・NPO 等、多様な主体がともに取り組むことで生まれる「人と人の素の出会い」が、互いの深い学びの機会や次の展開につながる事がわかりました。
- 地場企業の地域活動と本業との好循環が生まれている事例は、「信頼」を軸においた「人が活きる会社と社会」のモデルとも感じられ、新しい価値や成果を生み出している ことが見えてきました。
- 「人」としての豊かな生活や暮らしをつくっていくには、「地域」との関わりが重要であり、個人、企業や NPO、地域団体などが、ささやかでも「ともに何かに取り組む」ことで、顔の見える関係が育ち、支え合う気持ちが引き出され、地域にも愛着が湧き、つながりがさらに増えていくことがわかりました。

※詳細な実施内容や、参加者の声は、神奈川県ホームページからご覧いただけます。

検 索

神奈川県 パートナーシップ支援事業

● 課題

NPO、企業、大学、地縁組織、行政など、様々な主体が、社会を構成する一員として、互いのセクターの垣根にとらわれず地域・社会課題の解決に取り組む事例が益々広がっています。今後は、主体の括りにとらわれずに、協働の実践やマインドを学ぶ機会として企画していくことで、クロスセクターによる実践の拡大に向けた学びになることが期待されます。

事業の概要と実施したこと

スタディツアー（企業・NPO 編）

【日時】

平成 30 年（2018 年）1 月 25 日（木） 13 : 00～17:30

【参加者】

25 名（NPO 等 20 名、企業 2 名、大学 1 名、行政 2 名）

【テーマ】

社会の中で人が出会う・学ぶ・生きる～企業と NPO がつながることで生まれる価値～

【訪問先】

- ・MUFG グローバルラーニングセンター
- ・井土ヶ谷アーバンデザインセンター「おひさま広場」

【実践報告・情報提供】

- ・株式会社三菱 UFJ 銀行
「福祉施設・NPO との連携による「コーポレート・シチズンシップ・プロジェクト」
- ・東京ボランティア・市民活動センター（発表：主任 河村 暁子 さん）
「東京都内の企業・NPO の連携・協働による取組み紹介」
- ・株式会社太陽住建（発表：代表取締役 河原 勇輝 さん）
「つながりが新しいことを生む」企業が運営する地域の交流拠点の取組み」
- ・NPO 法人フェアスタートサポート（発表：代表 永岡 鉄平 さん）
「企業との連携による就労支援の取組み」



資料編

(1) 会員数の推移

	99	00	01	02	03	04	05	06	07	08
合計	136	141	125	176	145	184	195	216	204	192

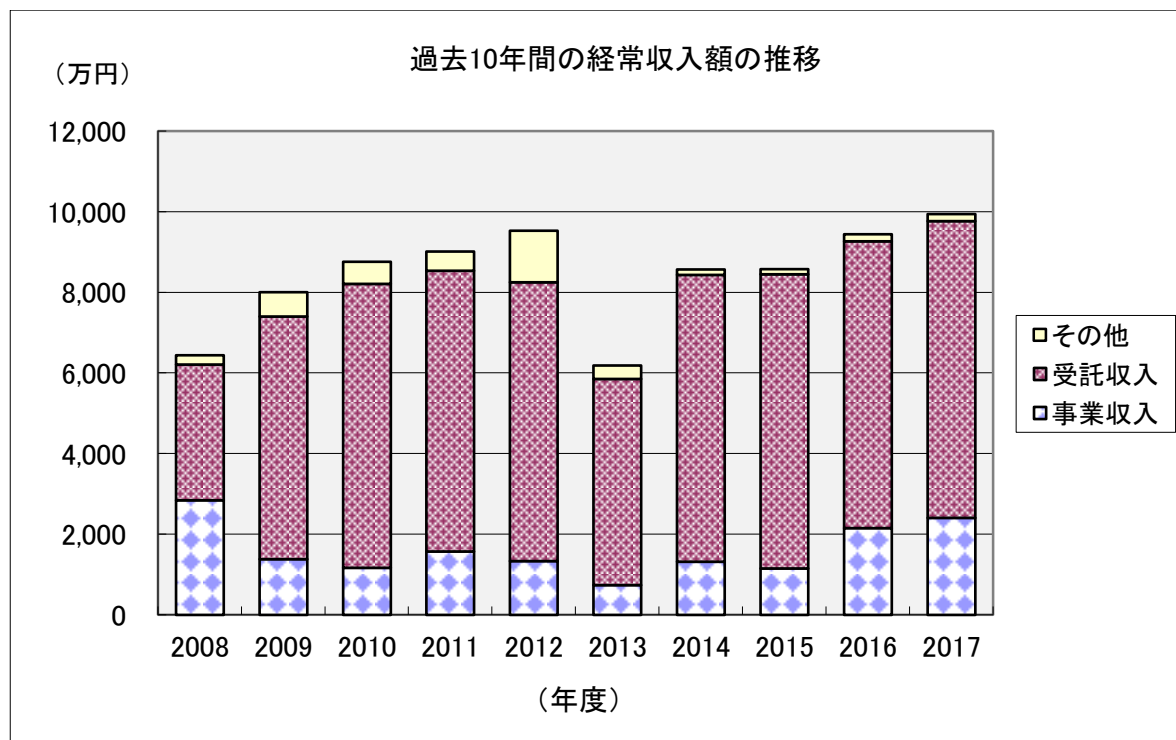
	09	10	11	12	13	14	15	16	17
合計	186	196	193	150	147	146	138	134	137

※ 1998年度は9月時点の数値、それ以外は各年度末（3月末）の数値です。

※ 正会員・準会員・賛助会員を合計した数値です。

※ 数年以上会費納入のない会員について、2012年度に整理作業を実施しました。

(2) 収入額の推移と内訳



※ 受託収入 = 行政からの委託事業（行政との協働事業）

※ その他 = 会費収入・助成金収入・寄付金収入など

※ 借入金収入や前期繰越金は含めていない

※ 2013年度、第2事業部が独立

(3) 市民セクターよこはま 沿革

1998.7	「市民セクター構築のための研究会」発足
1999.9	市民セクターよこはま 設立 (9/28) 横浜ワールドポーターズに店舗兼事務所「こらぼ」開設
1999.12	横浜市への要望書提出「新しい公共の創造へ向けて」
2000.1	配食サービス連絡会発足
2000.9	横浜移動サービス協議会発足（移動プロジェクトより独立）
2001.7	デイサービス・サロン連絡会、事業型 NPO 連絡会発足
2002.2	横浜ワールドポーターズに「NPO スクエア」開設 同所に事務所移転
2002.7	NPO マネジメント支援プロジェクト発足（～2005.9）
2002.10	横浜市市民活動共同オフィスの管理運営を受託（～2009.3） 協働のありかた研究会参画
2003.4	NPO 法人「市民セクターよこはま」設立・登記（認証 4/1） 精神保健連絡会発足
2003.5	設立総会、NPO 法人設立記念パーティ
2004.5	理事長松本和子退任、服部一弘就任
2004.7	横浜会議で研究テーマを提案、採択される 『「暮らしを支える生活術マトリクスモデル」作成と市民力を活かした新システムの研究』
2004.8	認知症ケアマネジメント推進事業開始 訪問介護員養成研修 1 級課程 開始（～2005.11）
2004.11	事務局内に評価事業部設置、福祉サービス第三者評価事業開始
2005.6	地域福祉コーディネーター養成研修開始
2005.8	NPO 等に対する相談・アドバイス事業開始（～2008.3）
2006.5	「介護サービス情報の公表」に係わる調査事業開始（～2009.3）
2006.12	理事長服部一弘退任、松本和子就任
2007.1	横浜市指定管理者第三者評価事業開始
2007.10	コミュニティビジネス支援事業開始
2007.11	横浜市中区住吉町（関内）に事務所移転 地縁型組織とテーマ型組織の協働モデル事業開始
2008.5	理事長松本和子退任、中野しずよ就任
2008.7	区役所窓口サービス向上支援事業開始（～2010.3）
2009.4	組織改編（事業ユニット制の導入）
2009.5	定額給付金の代理受領および横浜市への寄附手続き開始（～2009.11）
2009.7	横浜市市民活動支援センター運営開始
2012.7	認定特定非営利活動法人（認定 N P O 法人）として国税庁より認定
2013.4	横浜市中区太田町（馬車道）に事務所移転
2014.4	横浜市市民活動支援センター運営（2 期目） にしく市民活動支援センター運営開始
2016.10	神奈川県指定特定非営利活動法人（県指定 NPO 法人）指定
2017.4	横浜市認定特定非営利活動法人（横浜市認定 NPO 法人）認定

(4) 2017 年度の役員・事務局スタッフ

● 役員（理事・監事）

理事長	中野 しずよ
副理事長	竹谷 康生、松本 道雄
理事	井上 義臣、加世田 恵美子、齋藤 保、田尻 慎太郎 山野上 啓子、吉原 明香、岡部 祥司（2016.6～2017.5）
監事	西尾 敦史、大塚 宏

● 事務局スタッフ

常勤・非常勤 アルバイト	吉原 明香（事務局長）
	横浜市市民活動支援センター配属 関尾 潤、薄井 智洋、山田 素子、樋山 麻子（～2017.9）、小川彩子（2017.8～）、大河原 正人、奥井 利幸、神田 廣志、田中 田人、撞井 静雄、原田 姫子、村田 育男、落合 貴美恵、内田 智美、松原 優佳（～2017.5）
	西区市民活動支援センター配属 加世田 恵美子、宮澤 勝子、今村 理恵子、松田 香（～2017.8）、藤崎 さゆり（2018.4～）、北川 洋（2018.4～）
	法人事務所配属 石川 亜紀子、徳増 友紀、
ボランティア スタッフ	勝田 泰輔、山戸 一弥、平尾 隆郎（2018.2～）

2017 年度（平成 29 年度） 横浜市市民活動支援センター事業報告書

I. 2017 年度（平成 29 年度）事業のねらいと方向性についての総括

～多様な主体が連携した課題解決に向けてコーディネート基盤づくりを行いました～

市民活動を取り巻く環境が急速に変化してきている中、これまでこの横浜では市民の主体的な力で社会の様々な課題解決に取り組んできたことを踏まえ、横浜市市民活動支援センターとしてのこれまでの積み上げを活用し、市民活動団体の基盤整備の一つとして、様々な主体が連携した課題解決がますます推進されるよう、そのあと押しをしていくことを全体の方針としました。

大都市横浜において、これを実現していくためには、市域・区域の中間支援機能をもつ組織や、先進的・開拓的に事業に取り組む活動団体との連携が重要となることから、相互に協力し合うような関係構築をさらに推し進めました。

また各事業は、目的やねらい、実施プロセスや手法、成果指標やその結果をわかりやすく可視化することに努めました。

さらには、職員が多様な主体をつなげていくコーディネート力をつけていくことを目指し、さまざまな現場に足を運び、活動実践者との顔の見える関係の充実を図りました。

管理運営：認定 N P O 法人市民セクターよこはま

Ⅱ．個別の事業計画

1．相談事業全体の成果と課題、来年度に向けた展望

本年度は、横浜市民活動支援センターとしてのこれまでの積み上げを活用し、市民活動団体の基盤整備の一つとして、様々な主体が連携した課題解決がますます推進されるよう、そのあと押しをしていくことを全体の方針としました。

上記方針に基づき、関内イノベーションイニシアティブ（株）および NPO 法人横浜コミュニティデザインラボとの連携による予約制専門相談を開始し、すべての相談について職員が同席して対応しました。このことにより、これまで相談事例が少なかった社会的起業家やなかなか接点の持てなかった組織の動向がわかることはもちろん、相互補完的に情報提供できるなど団体にもメリットが大きいことがわかり、それぞれの組織の強みを活かした対応につながることで検証できました。

次に市民局市民協働事業提案アイデアブラッシュアップ助成金事業について関内イノベーションイニシアティブ（株）ならびに市民局市民活動支援課と、重層的なサポート体制を組むことができた結果、申請内容の質の向上や 16 団体に上る応募件数につながるなど、大きな効果を生みましたので、来年度は採択団体の伴走的な支援に積極的に関わりたいと考えています。

さらに、NPO 法人設立や認定を目指す方には準備段階や運営スキルに応じた相談対応が必要となるため、市民活動支援課 NPO 認証班と当センター両方の支援機能を活かし合いながら、連携して対応することを、これまでも互いに心がけていましたが、本年度はしくみ化することができました。具体的には、市民活動支援課で、法人設立に向けた対応を数か月にわたり行う中で、適切な時期を見極め、当センターへも併せて相談するようアドバイスを行うということが日常的に行われるようになり、当センターは専門相談の枠で受けとめた結果、いわゆる水際で適切な支援が行えるようになりました。それを底支えたのが、通年（2 か月に 1 度）の情報交換のための定例会で、上記しくみの運用や具体的な団体情報を含めたケース検討を行うほか、法人設立や運営にあたってのニーズの動向や必要な支援について共通認識をもつことができ、それぞれが行うセミナー等の企画につなげることができました。

来年度は、上記をさらに力強い流れにしていき、中間支援機能をもつ NPO 法人団体を中心に「総合相談」という切り口でネットワークを強化し、市民活動支援課以外の関連部署とも調整を図りながら、横浜の市民活動支援のバージョンを変えていきたいと考えています。

名称	内容 特徴	対象	今年度特に取り組んだこと	実施件数	成果と課題
1) 日常的な相談対応	・団体運営の悩みや、こうありたいという思いに寄り添い、日常の相談に対応しました。 ・専門相談のみならず通常の相談についてもできるだけ事前に予約することをお勧めし、必要な情報を準備した上で、利用いただけるよう、ご案内方法や周知方法について見直しました。	主に市民活動団体（窓口来館のかた・電話・メール等、広く一般の方含む）	・ホームページに問合せフォーマットを作成し、より多くの人に相談頂けるようにしました。（未） ・団体および個人の相談受付カードの改訂を行いました。 ・全体研修・O J Tを重ね相談対応の基本形が身に付くよう、研修を行いました。	計 769 件/年 月平均 65.5 件 （昨年度：61 件/月、目標件数：65 件/月）	成果 相談に際して、十分な時間をかけて対応することで、団体の全体状況がつかみやすくなりました。また、日常の相談から各種専門相談につなげる二段階制が定着しました。 NPO 認証班との日常的な連携が定着し、理念ある活動を組織として運営していくことの基本的な考え方やノウハウを伝えること、法人事務を滞りなく実施していくことに向けた講座につなげるなど、必要な情報をタイムリーに提供できるようになりました。 課題 職員が相談者のおかれた状況を真の意味で理解し、一緒に考える姿勢を身に着ける、また必要な情報を的確に提供する、という相談のプロフェッショナルになるためには、常なる自身への問い直しやキャリアの積み重ねが必要と思われます。
専門相談 2) -管理者による予約制相談	団体運営や企業 C S R の問題・課題については、マネジメント経験が必要なことから、毎月 1 日、責任者による相談日を設定し、複雑な状況の相談について、対応しました。	市民活動団体、地域活動団体、企業、大学、行政等	相談後、必要があれば類似の活動などを行っている NPO 法人等につなげたり、時に団体と同席して三者で今後の対策を考える場を設定するなど、丁寧なコーディネートを行いました。	計 106 件/年 月平均 8.8 件 （昨年度：各 4.7 件、目標件数：各 5 件/月）	成果 事後のコーディネートやフォローアップなど丁寧な対応を心がけることで、相談団体との信頼関係が構築できました。 課題 他 NPO へコーディネートする際、対応への謝金について相談先の団体へ可能な範囲で支払うよう促していますが、状況的に難しい場合もあります。

専門相談【新規】 3) -中間支援組織との連携による予約制相談	横浜市内の主な中間支援組織に対して連携を働きかけ、協働して相談に応じました。専門性の高い中間支援組織団体が団体の悩みをじっくり受けとめ、様々な角度からアドバイスをを行うことで、自組織の運営について総合的に考えることができるようサポートしました。	市民活動団体、地域活動団体、企業、大学、行政等	・今年度新たな取組みとして、年度前半は各組織との調整にあたりました。 ・本事業を通じた連携により、中間支援同士の生きた情報の流通、相談対応力アップ、広がりのあるコーディネートを意識した相談対応に取り組みました。	計 10 件/年（10 月より募集開始、11 月～3 月の実績）	成果 相談事業に職員が同席することで、各中間支援組織の専門性・特徴を知ることができ、相談内容に応じたコーディネートをすることができました。 課題 相談者の様々な悩みに対応できるよう分野別・エリア別に、対応団体を増やしていく必要があります。
専門相談 4) -税理士による無料相談	・日常の会計処理、NPO 会計基準に則った決算書類の作り方など、気軽に相談ができる場として利用することができます。 ・5 月より毎月 1 回開催・1 日当たり 3 団体の相談を受付	会計に関する様々な疑問や悩みをお持ちの NPO 法人、市民活動団体	共催の「NPO 法人税理士による公益活動サポートセンター」派遣の税理士と当センター職員が同席し、団体のニーズに応えました。	23 件 （昨年度：21 件、目標件数：27 件）	成果 担当税理士と担当職員が事前に相談に至る経緯や内容を共有したうえで臨むことで、限られた時間（40 分）の中でスムーズな対応ができ、団体の疑問点の解消につながりました。 課題 無料相談の枠でおさまりきれない案件については、アドバイザー等派遣を勧めしていますが、現在のところ無料相談で終わる場合が多くなっています。
専門相談 5) -アドバイザー派遣制度	・1 回の相談時間：2 時間程度。 ・アドバイザー料：5,000 円（初回） ・税理士や社会保険労務士といった、アドバイザーが団体の事務所に直接出向き、約 2 時間かけて丁寧なアドバイスを行なうため、団体の様々な悩みや困りごとに対応できます。	会計税務や労務に関する様々な疑問や悩みをお持ちの NPO 法人、市民活動団体	「よこはま NPO 会計塾」や「よこはま NPO 労務塾」を受講した団体へ、学んだことを実際に組織内で実践する際の方法の個別アドバイスとしても活用できることを周知しました。	5 件 （昨年度：7 件、目標件数：8 件） ※制度活用に至らない相談：3 件	成果 顧問契約が難しい段階の団体（発足当初や予算規模が 1000 万円以下）の相談が多くなっており、専門的な個別アドバイスを受ける機会が役立っています。 課題 申請件数は、左記に加えて 3 件ありましたが、労務に関する 2 件については、社労士に直接電話で問い合わせ、迅速に解決につなげる方法をとりました。今回のような簡易な相談内容については、当法人顧問による対応がタイムリーで良いと考えますが、件数としては、やや低くなります。
専門相談 6) -資金調達 おうえんチームによる相談	日本政策金融公庫・横浜市信用保証協会・横浜市民活動支援センター・市民局の 4 者のチームで、融資に関するお悩みに対応します。	資金調達にお悩みの団体	月 1 回の相談日を設定し、イベント時の周知や SNS を使った配信など、多様な方法で周知を図りました。	4 件 （昨年度：7 件、目標件数：10 件）	成果 支援センターが初期の聞き取りを行い、相談内容や団体の現状をある程度把握してから、必要に応じて、相談会につなぎました。その工夫により団体のニーズと相談会のミスマッチが起これにくくなりました。 課題 積み上がってきた相談対応事例を、他団体の支援に活かすため、具体的な融資の活用方法として整理し、発信していくことが必要となっています。

2. 情報の提供・発信事業全体の成果と課題、来年度に向けた展望

市民活動や地域活動に関わる情報や企業 CSR に関わる情報、これらを後押しする大学・行政からの情報を市民へわかりやすい形で発信する「市民活動情報メディア」としての意識を持ち、情報紙、インターネット・SNS、施設内を活用し、情報発信をしていきました。発信するにあたっては、NPO 認証班と連携して、本年度施行された重要な法改正ついて、アニメート発送時にチラシや対応ノウハウを同封するなど様々な機会を捉えて発信しました。

情報紙 animato については、テーマに向き合い、丁寧な取材を行い、深い記事を発信できた一方で、チャンネル animato やホームページの改訂については、スケジュールどおりに進めることができませんでした。

またこれまで当センターとつながりの少なかった活動層に対しても、関心を持つ機会を広げるため、積極的に中間支援機能をもつ様々な組織と連携し、告知方法を工夫した結果、face to face（7P 参照）を中心に新規のイベント参加者を増やすことができました。

来年度は、体制を充実させ、ツールごとにタイムリーに情報発信できるようにスケジュール管理を徹底していきます。

また、ホームページのデザイン改訂にともない、特に表紙のコンテンツについては市内中間支援機能を持つ団体と連携した専門相談事業を軸に置き、団体が発信する各種情報の入り口機能を果たせるように工夫していきます。

区分	名称	内容 特徴	対象	今年度特に取り組んだこと	実施内容	成果と課題
紙媒体による情報発信	1) 情報紙「animato」	今後重要と思われる課題や、市民活動団体にとっての関心ごとを視野にいれてテーマを検討し、年 3 回発行しました。 市民活動団体がより幅広い視野で活動できる手助けとなるよう、まだまだ活動していない方々には、市民活動や地域に根付いた活動の意義を感じ取っていただけるよう、工夫しました。	① 市民活動団体 ② 活動潜在層の一般市民	第一のターゲットである市内 NPO 法人 1510 団体に対して、今年度より二部ずつ送付。みなさままでお読みいただくよう送付状を添え、送付。 また、横浜型地域貢献企業約 400 社にも送付を開始しました。	(1) 21 号（8 月発行） 「語り合いがつくる新しい朝」 (2) 22 号（12 月発行） 「NPO の経営戦略 ～共に未来をつくるために～」 (3) 23 号（3 月発行） 「ジバース ～地場企業の社会貢献の取組み～」 (目標：年 3 回発行)	成果 団体の魅力や活動内容を伝えることに加え、手に取った読者が、考えるきっかけとしたり、学び始める動機、次の行動を起こしやすくなることを意識して、掲載内容を工夫したことで、団体の成長を促す効果があったと考えます。 課題 発行部数 10,000 部は市域の発行配布数としては多くないこと、また表紙以外の中面について、レイアウト等編集デザインについてさらに質を高めていく必要があります。
インターネットによる情報発信	2) ホームページ	イベント等の周知は、facebook と連動して発信し、講座への申込機能を実装することでスムーズに参加できる体制を整えました。 初めてアクセスしていただいた方には、市民活動に興味を持っていただけるように、活動者には、「ここに来れば情報が得られる」と思ってもらえるように、HP を運営しました。	市民活動団体、市内 NPO 法人、行政機関。	より見やすいホームページを目指して、デザインを見直しました。また当センター主催のイベントや講座への申込機能を付け加えます。（3 月未完了）	1 日平均アクセス数：715 ページビュー (目標：・1 日平均アクセス数：700 ページビュー)	成果 本年度より当センターとしての facebook が可能となりました。他の中間支援組織への掲載依頼を含め SNS の活用ができたことで、幅広い層に情報を届けることができました。 課題 システムの都合上、大幅な見直しはできないものの、8 年間変えていなかったホームページのデザインについて、改訂を行いました。（3 月未完成）
	3) チャンネル animato【新規】	つながりのまちづくりフォーラムなどの準備プロセスも含めた実際の様子などを動画で撮影し、収録した内容を編集して配信しました。配信は当センターホームページと facebook で行いました。	市民活動団体、NPO 法人、活動者に向けて配信。	市民活動実践者のみならず企業も含めたさまざまな主体が地域課題解決に取り組んでいる様子をリアルに伝えました。	つながりのまちづくりフォーラムの準備段階から本番まで 3 回に分けて配信。 目標：年 3 回以上発信	成果 編集やテロップ入れ込みなどについて技術的な手法を身に着けることができました。今後アクセス数を検証します。 課題 広報ツールとして、どの時期にアップするかなど戦略的な検討が必要となっています。

インターネットによる 情報発信	4) メールマガジン animato pico	市内で実施される市民活動のイベントや助成金情報を、より多くの方にお伝えするために、配信希望の方、当センタースタッフと名刺交換させていただいた方へ月に一度メールマガジンを配信しました。	市民活動団体、NPO 法人、活動者に向けて配信。	・11 月には臨時号として、横浜市市民局市民協働事業提案アイデアブラッシュアップ助成金事業の情報を配信しました。	月に1度+臨時号1回を加え年13回発行しました。約 2500 人に対して配信しました。（目標：年12回配信）	成果 当センターのイベント参加者のアンケートを見ると、メールマガジンを見て参加した方もありました。 課題 当センターと法人の facebook への「いいね」の数が1,500を超える中、メールマガジンは、掲載依頼のあった団体への広報協力としての役割が大きくなっていますが、実際には SNS でのシェアの方が拡がる可能性は大きく、見直しの時期にきています。
	5) Facebook	当センターイベント情報や、開催後のレポートを写真と共に掲載しました。HP やメールマガジンと連動することで、多くの方に情報を届けられるようにしました。	同上	事業担当者によるレポートとともに、写真や動画を積極的に活用していきました。「チャンネル animato」と連動し、気軽に市民活動の話を聞いていただき、興味を持っていただく機会を増やしました。	月平均 520 ページビュー （目標月 400 ページビュー）	成果 大規模フォーラムはじめ、各種研修・イベントの告知、また情報紙の紹介などで、講師・登壇者・各中間支援へのシェア依頼などによって、リーチ数を伸ばすことができました。 課題 現在フォロアーは約 700 人なので（1 月現在）より多くのフォロアーを増やす必要があります。
施設内の 情報発信	6) Zoomy IN!! の運営 （5 階入り口の掲示板）	施設利用者が一番目に入りやすい、入口に最新の情報や話題のニュースなどを掲示しました。市民活動に関する情報をお伝えするとともに、施設のあたたかな雰囲気づくりを行いました。	施設利用者	・利用者とセンター職員がコミュニケーションをとるきっかけとなるよう、季節感を演習するなど作成に工夫を凝らしました。	月 1～2 回更新実施しました。 （目標：月 2～3 回更新）	成果 施設利用に関する案内やイベント情報を整理して発信することで、利用者にとって必要な情報を分かりやすく届けました。季節感のあるディスプレイとともに掲示するなどの工夫をした結果、目につきやすくなりました。 課題 新聞記事などのトピック情報の掲示増加や法人事務の発生時期と連動させノウハウの発信も併せて行う必要があります。
	7) 市民活動情報コーナーの運営 （4 階）	・市民活動・ボランティアに関する雑誌を配架しました。また、話題の書籍なども購入し、配架しました。 ・他の支援組織の情報誌などを配架しました。 ・NPO 法人事業報告書閲覧コーナーを運営しました。	同上	・利用者が市民活動に関する情報を集め、来館時に多くの情報を得られるように、活用しやすいような配架位置や更新を行いました。 ・横浜市認証の NPO 法人 1510 団体の報告書について閲覧できるコーナーを設置していますが、NPO 認証班と連携し、利用の実態を知るためのアンケートを実施しました。（2 月～）	・月 1 回更新を実施しました。利用者がゆつくりとくつろげるカフェコーナーの近辺に情報コーナーを配置することで、待ち合わせやくつろぎの時間に気軽に市民活動の情報を得ることができるスペースになるよう運営しました。 （目標：月 1 回更新） ・NPO 法人報告書等の閲覧数は年 200 件程度（数確認）となっており、情報公開の一助となっています。	成果 本の入れ替えや、ポップによる概要の説明、最新刊の平置きなどを行ったことで、これまで以上に目立つコーナーになり活用しやすくなりました。 課題 来館者に手に取ってもらえるような選書の検討が必要です。

3. 市民活動マネジメント支援事業の成果と課題、来年度の展望

本年度は、NPO 運営の基盤を法人事務や会計・労務面から盤石なものにしていくための支援に力を入れて実施しました。

そのほか、マネジメント支援として、年度の中盤に「行政への提案カススキルアップ道場」（全 5 回）に、関内イノベーションイニシアティブ(株)、市民局、当法人として協働で取り組みました。その受講者が助成金の応募に向けて、各種専門相談を利用したり、協働をより理解するために、協働契約ハンドブックの検討会に参加するなど、運動性のある複合的な支援につなげることができました。

一方で、懸案となっている「NPO の経営スキルアップ」や「収益につながる事業興し」などについての本格的で体系的なセミナー等は実施できておらず、来年度に向けて、実施を検討していく必要があります。

来年度は、中間支援機能をもつ組織との連携の幅を広げ、各団体がさらに効率的にミッションに邁進していけるよう、懸案となっている上記の取り組みを、協働事業として実施していきます。

名称	内容 特徴	対象	今年度特に取り組んだこと	実施内容	成果と課題
1) NPO 法人運営 基礎力アップ講座 ※旧名：知ったクセミナー	・「法人事務の年間スケジュール」「総会の開催手順」 「所轄庁への届出」など NPO 法人として必要な諸手 続きや、総会運営など、事務全般について知識を身 に着けることで、安定した NPO 法人運営を目指しま す。	立上げ中または、 立上げ後間もない NPO 法人 （NPO 法人の事 務について学びた い方）	NPO 法人共通の理念や非営利団体だ からこそ重要な考え方についても、講座 に組み入れました。また実施した講座資 料を相談等でも活用し、わかりやすい情 報提供につなげました。	名称：NPO 法人スキルアップジム 日時：2 月 14 日（水） 13:30～17:00 会場：横浜市市民活動支援センター ワークショップ広場 受講者数：36 名（定員 48 名）	成果 具体的で実践的なスキルやノウハウを詳細に伝えることにより、参 加団体が迷うことなく、届け出等をできるようになったと思われます。 課題 受講しなかった団体も、読めばある程度分かる冊子の作成が必要 となっています。
2) NPO ブラッシュアップ セミナー【新規】	行政への提案カススキルアップ道場として ・「助成金申請の書類作成・プレゼン」や「行政・企業 等との協働」等において身に着けておきたいポイントを 学び合いました。 ・団体や活動者自身の渉外スキルのブラッシュアップを 目指しました。	支援者や協働相 手とのよりよい関 係構築を図り、団 体の活動をさらに 展開させていき たい市民活動団体	※2017 年度新規事業	・同様の内容を「行政への提案カススキル アップ道場」として、市民局・関内イノ ベーションイニシアティブ(株)および当法人 の協働事業として実施のため、ブラッシュ アップセミナーは、上記 NPO 法人スキル アップジムの第一部として「基本の組織 体制と運営のための会議について」の講 義として行いました。	成果 三者協働の事業に切り替え、「行政への提案カススキルアップ道場」 として 5 回連続講座として実施したことで、質の高い協働事業提 案につながるなど、大きな成果につながりました。 課題 NPO 法人運営の基本になることを、設立直後の団体へ伝えること で、より自主的な運営につながるということがわかりましたので、タイムリー に学べる事業が必要です。
3) 会計・税務に関する講座 「よこはま NPO 会計塾 基本のキ！」 ※NPO 法人税理士によ る公益活動サポートセンタ ーとの共催	簿記 3 級レベルの講座で基礎知識を得、活動計算 書といった NPO 法人独特の会計について学びを深め ました。	会計知識を身に つけるのはこれから という、会計初学 者向け	回数増により各回演習を取り入れること が可能となりました。	日時：6 月 21 日～7 月 12 日 （毎週水曜 13:30～17:00） 参加者数：延 83 人（1 回平均 20.75 名） アンケート平均点（全体）88.5 点	成果 4 回連続講座に変更したことで、毎回の内容を復習しながら簿記 手順の一巡を身に着けることができ高い満足度につながりました。 課題 団体での会計業務の実態や課題を踏まえながら、より実務に活か せる内容に再構成していくことが必要です。
4) 労務に関する講座 「よこはま NPO 労務塾」	労務の考え方や全体像を知り、具体的な管理の仕 方や必要な手続きを学びました。 また、講座と当日、実際に労務で悩んでいることにつ いて、短時間の個別相談を設定しました。	労務が初めての 方、これからさら に整備していきたい という団体向け	・労務を身近に感じられるよう、ステップバ イステップでの進め方を意識して内容を調 整しました。 ・分野の違う三団体の取り組みのステップ について生の声として報告してもらうなど、 実態に即した応用ができる工夫をしまし た。	日時：2 月 1 日（木） 10:00～16:00 会場：横浜市市民活動支援センター セミナールーム 受講者数：午前 24 名・午後 20 名 （定員 30 名） アンケート平均点：午前の部 89.4、午 後の部 92.5（講義編のみ）	成果 NPO 法人の労務に経験豊富な社労士の講義と個別相談により、 疑問点を解消できました。 課題 現在の疑問点は解消できても、社会保険労務士との顧問契約ま では難しい団体は、問題が起こるたびに迷うことが多いと思われま す。税理士同様、無料相談の検討が必要となっています。

4. ネットワーク構築事業の成果と課題、来年度の展望

市民活動団体、地域活動団体、大学研究者、企業、行政のさまざまなセクションなどと、幅広い主体がつながり合えるよう、多様な取り組みを行いました。

今年度は、NPO・企業・行政・大学など多様な主体が枠を超えて有機的につながり、互いを磨き合う「ダイヤモンドプロジェクト」を新規に打ち出し、ゆるやかなつながりづくりの場として「Face to Face」を開始し、これまでつながりのなかった参加者層が増えてきました。また「つながりのまちづくりフォーラム」は、地場企業の取り組みにもスポットをあてて実施したところ大きな反響をいただきました。

一方で、市民活動実践者以外の企業や大学研究室等とのネットワーク構築については核となる人や組織と継続的に関わり続けるには至っておらず、来年度以降に課題を残しました。

名称	内容 特徴	対象	今年度特に取り組んだこと	実施内容	成果と課題
1) ダイヤモンドプロジェクト -Face to Face 【新規】	取り組んでいるプロジェクトの報告やお互いの悩みの共有など、相互にアドバイス、意見交換しながら多様な主体がゆるやかにつながり合い、互いに貢献し合うような関係づくりのきっかけとするため、少人数制の学び合いと交流の場を実施しました。 ・「SDG s」が社会貢献の共有言語になるともいわれていますので、基本的な知識を学び交流する機会をつくりました。 ・「自身のミッション・ビジョンを追求しつつも、他者の現在の状況をも気遣い協力し合い、人格・体力・知識・精神を磨きつつ、主体的に生きる」。このマインドを身につけるきっかけとするため、ボードゲームで学ぶ機会をつくりました。 ・自身の災害にあった体験を分かち合うだけで、お互いの深い学びになることをゲーム感覚で体験することで、日ごろから、聴き合い、語り合い、体験を分かち合うことの大切さを学ぶ機会をつくりました。	市民活動団体、NPO 法人、地域活動団体、自治会町内会、大学研究者、企業、行政職員	最終的には、自団体だけでは解決できなかったような問題について、新たなヒントが得られたり、協働や協業のパートナーが見つかったりすることを目指していますが、それには「信頼の土台」が必要となります。 そこで、フルオープンで幅広く来ていただく機会と、ハーフオープンで個別のお声がけを中心に少人数でやや個人的なつながりもできるような機会をミックスして行うことで、いわゆる「顔の見える関係」の方々がお互いに増えていくことを意図して実施しました。	第1回のテーマは「SDG s」 10月21日（土）13:00～17:00 これからの協働新時代に向けて、基本的な知識を学び交流する機会としました。 参加者：30名（定員40名） 第2回のテーマは「7つの習慣」 11月15日（水）18:30～21:00 世界的ベストセラー「7つの習慣」のボードゲームで『主体的に動くこと、力を合わせていくことの大切さ』を体験しました。 参加者：10名（定員12名） 第3回のテーマは 「防災トランプで互いの経験を語り合う」 3月13日（火）18:30～21:00 聴き合い、語り合い、体験を分かち合うことの大切さを学びました。 参加者：16名（定員：15名）	成果 顔の見える関係づくりを構築するための場として、座学だけでなく交流やわかちあいのワークショップを中心に「主体的に考え、動き、協力して、大きな目的を目指す」ことを軸に開催したことで、セクターを超えた参加者の協働マインドの醸成につながりました。 課題 その場限りの関係にならないよう、定期的に集まれるような場や対話の場を設け、そこで生まれる課題解決につながるプロジェクトに資するコーディネートに力を入れていく必要があります。 また、これまでの参加者への周知や継続して参加したくなるしかけや参加者自らネットワークを広げていくような場づくりも必要です。
2) ダイヤモンドプロジェクト -パートナーシップ・ミーティング	2015年度から、神奈川県と共催している企業・NPO・大学のマッチング事業を、引き続き共催で実施しました。地域や社会の課題解決に向けたマッチング事業の実現に資する企画としました。	同上	「Face to Face」と連動させ、SDGsを題材に、多様な分野・領域の方たちが出会い、学び合う継続的な場をつくりました。	企業・NPO・大学パートナーシップミーティング 2017in 横浜 （同日開催：クロスセクタートーク Road to 2030） 日時：8月7日 13:30～17:30 会場：お客様価値創造センター（富士ゼロックス株式会社） 参加者数：57名（定員60名） ※昨年度実績73名（定員80名）	成果 SDGs を題材とした体験ゲームを通じて、社会課題の解決に向けて連携・協働が不可欠であるという意識を、企業・NPO 双方の参加者で共有できました。 課題 横浜市経済局の横浜型地域貢献企業への登録が453社（平成29年10月1日現在）あり、地元企業による社会貢献活動への関心・ニーズが高まってきている中、より具体的な連携・協働のきっかけづくり、およびコーディネートの必要性が高まっています。そこで経済局や企業ネットワーク組織等との連携・協働につながるよう戦略的・継続的に働きかけを行っていく必要があります。

3) よこはま市民パブリック★スクールの実施	市民活動団体・NPO 法人への調査結果をもとに、テーマを設定し、意見交換を実施、市民による政策提言を目指します。今年度は、「区域の市民活動支援」をテーマに、意見交換会等を実施しました。	地 域 活 動 団 体、NPO 法人、各区の市民活動支援センター職員、センター担当職員等 テーマを所管する行政セクションの職員	市民活動支援センター支援事業における各区センターへの調査結果をもとに、具体的なテーマを絞り込み、今後の区域の市民活動支援について議論を行いました。	テーマ：区域の市民活動支援について 第 1 回： 区版センターの運営・事業におけるポイントについて など 第 2 回： これからの区版センターの機能向上に向けたポイントについて など	成果 区版センターの運営・事業における課題や強化ポイントを挙げることで、今後のセンター機能向上に向けた方策を検討するうえでの論点をまとめることができました。 課題 今後、ネットワーク会議等を通じて機能強化に取り組むとともに、民間中間支援の方たちも交えて、さらに区域の市民活動支援の在り方や方向性について検討していきます。
4) つながりのまちづくりフォーラム 2017	2016年度に実施した地域の事例を知るための団体訪問・ヒアリングや昨年実施した「みんなの協働フォーラム」の成果をふまえ、協働事例について、企業や行政とともに考え、学び合う、参加型のフォーラムを目指しました。	市民活動団体、地域活動団体、自治会町内会、大学研究者、企業、行政職員	・自治会・地域活動、テーマ型 NPO、企業三者に登壇いただき、互いの活動内容について学び合うなかで見えてきたことを、ディスカッションのテーマとして設定しました。	実施：11 月 1 日（水） 17:00～20:45 参加人数：198 名 つながりのまちづくりフォーラム～地域の未来に出来ること～	成果 登壇者と十分な打ち合わせを行い、メッセージの軸を決めて、それぞれから気持ちの部分も含めた生の報告を行っていただくことで、来場された方々との一体感があり、「地域の未来のためにさまざまな主体と力を合わせる時代が来た」という意識を生みだすことができました。特に地場企業の地域貢献に関する感想が多く寄せられ、課題解決の担い手として活躍していくことの可能性を発信することができたと思われます。 課題 「つながりのまちづくり」をテーマに 4 回のフォーラムを開催して、事例を知り、マインドを学ぶことに力を入れてきたので、次年度以降の企画については、他事業とのバランスを見て、切り口を考えていく必要があります。
5) 横浜市社会福祉協議会 横浜市ボランティアセンターとの連携	定例会議を年 2 回程度実施し、情報交換や互いの事業の広報協力、関東圏で震災が起こった際の市民活動団体の連携や当センターの役割などについて話し合い、信頼関係を積み上げ、相互補完関係をさらに進めます。また災害ボランティアネットワーク会議主催の DIG 訓練に参加します。	横浜市社会福祉協議会横浜市ボランティアセンター、横浜市市民局市民活動支援課	横浜市ボランティアセンターと連携し、発災時の、役割分担等について、お互いのもっている情報や経験などをもとに、見直し・確認しました。	・災害ボランティアネットワーク定例会への参加 ・災害図上シミュレーション訓練、横浜市災害ボランティア支援センターと区合同立上げ訓練への参加 ・横浜市ボランティアセンターとの定例会	成果 災害図上シミュレーション訓練、災害ボランティアセンター定例会へ参加し、発災時の対応について確認することができました。 （NPO 法人のコーディネート、情報発信） 課題 災害図上シミュレーション以外に、具体的な連携を検討できるように話し合いを継続していきます。

5.各区の市民活動支援センター支援事業の成果と課題、来年度の展望

区版センター支援事業では、従来、ネットワーク会議を中心に、お互いの情報交換や学び合いを通じて、中間支援力の向上に取り組んできました。

今年度は、現状に則して、また中長期的な視野で中間支援力向上に向けて取り組みをしていくために、ヒアリングや関わるセクションとの情報共有・意見交換を通じて、各センターの実態把握に力を入れました。

そこから直営センターの職員が嘱託雇用のため、ノウハウや人とのつながりがなかなか積みあがっていかないことや、センター職員の横並びの関係性の中ではかえって事業が縦割りになりやすいこと、仕事を進めていく姿勢や態度がより主体的になっていく必要があること、などがわかってきました。

そこでこれらを踏まえて来年度以降の事業を考えていく必要があります。

名称	内容 特徴	対象	今年度特に取り組んだこと	実施したこと	成果と課題
1) 区版市民活動支援センターを対象とした調査の実施 【新規】	これまで、ネットワーク会議等を通じて、各センターの支援力向上に取り組んできました。その間、区における新たな方針や事業展開、あるいは経験を積んだ職員の入替り等によって、区版センターの状況が変化してきたことから、センターの現状把握に向けた訪問調査を行い、今後のセンターにおける中間支援力向上に向けた課題を整理・検討しました。	18 区区版センター	今後の区版センター支援事業や、区域の市民活動支援体制を検討していくための情報収集として、区版センター関係者から現状や課題をヒアリングしました。	【対象区】 鶴 見 区 （ 10/18 ） 、 港 南 区 （10/25） 、 戸 塚 区 （1/18） 【ヒアリング項目】 区版センターが抱えている課題と、その解決に向けた取組み、区版センター支援事業に対する要望、等	成果 区版センターの中間支援力向上に向けた課題として、組織としてのスキルやノウハウの蓄積が深刻な課題であることが把握でき、区版センター支援事業や、パブリックスクールでの議論につなげることができました。 課題 ヒアリング結果を踏まえ、今後も引き続きネットワーク会議やパブリックスクールなどによる支援策の検討が必要となっています。
2) 互いに学び合うネットワーク会議の実施	18 区全ての区版センターと地域振興課職員を対象としたネットワーク会議を実施します。情報交換等を通じて、互いのノウハウや運営の工夫等を学び合う場として、年 4 回開催しました。 ※なお、初回は、18 区の地域振興課職員のみを対象として、区版センターの運営について考える機会としました。	・区版センター職員 ・地域振興課センター担当職員 ※ 初 回 は 地 域 振 興 課 職 員 の み ※ 第 三 回 は 地 域 振 興 課 社会教育主事補および社会教育指導員も対象	教育委員会と共催し、第 3 回を社会教育研究会（事務局：教育委員会）との合同企画とすることで、社会教育主事（補）、社会教育指導員を含めセンターに関わる職員が顔を合わせ、チーム感の醸成をテーマにした学びの場をつくることができました。	第 1 回：センター事業の運営 日時：5 月 30 日 （出席：18 区 30 名） 第 2 回：利用登録及び事業へのニーズ把握 日時：7 月 6 日 （出席：17 区 32 名） 第 3 回：ラウンドテーブル『実践を語り合い、聴き合う』 日時：11 月 7 日 （出席：18 区 47 名） ※社会教育研究会との合同企画 第 4 回：地域課題解決に向けたコーディネートについて考えよう 3 月 8 日 （出席： 16 区 28 名）	成果 事前アンケートや当日のワークを導入することで、自区の実践をしっかりとふりかえることができました。 第 1 回は、区版センターの目標や達成度をどのようにとらえ、成果や課題は何か、課題解決に向けて何を行おうとしているのかなどを聴き合うワークを実施しました。 第 2 回は、利用登録の現状やニーズ把握の方法などを共有したうえで今後どのようにして充実させていくか考え合うワークを行いました。 第 3 回のラウンドテーブルでは、仕事に向き合うときに必要な「内省的な思考」を身に着ける入り口となるもので、本質的な学びとなり、この流れは継続していくことが必要とわかりました。 課題 事業を通じて把握した課題、検討が必要です。や区版センターの将来的なあり方を見据えながら、必要なテーマ・企画を検討していく必要があります。

3) 各区の支援センターの中間支援力向上を目指した伴走支援 (通年・希望区)	神奈川区、港北区、栄区、南区の4区で実施しました。区版センターがコーディネーター役となり、区内の区民利用施設が連携・協働し、地域の担い手づくり等に取り組んでいけるよう、情報交換会や連続講座、ワークショップ等の実施を支援しました。実施にあたっては、区役所内の関係部署と区の支援センターが連携して実施できるように働きかけを行いました。	・ 神奈川区 ・ 港北区 ・ 栄区 ・ 南区	特に栄区においては、地域振興課からのニーズに応え、施設連携支援のほかに、嘱託職員への接遇研修と相談対応の悩みを共有するワークを実施しました。同様のニーズが鶴見区からもありましたので、個別対応で実施しました。	施設連携会議等の開催 ・神奈川区 8月28日 ・港北区 7月5日 ・栄区 8月23日 12月1日 ・南区 5月26日 12月14日 ほか実施に向けた打合せ等 合計9回(鶴見区含む)	成果 本年度3年目となる神奈川区や南区については、区版センターのファシリテーション力が向上し、各施設との顔の見える関係も進んできたことが感じられました。 港北区や栄区においても、区版センター職員が施設連携の会議に関わることで視野が広がり、日ごろの相談業務などのコーディネートに活かされていくことが期待できると思われます。 課題 本事業をきっかけに、区版センター職員の区内各施設との関係性は深まりつつありますので、協働事業をセンターから働きかけるなど、生きたつながりをつくり、コーディネートの基盤となる信頼関係づくりを意識的に行っていくことが必要となっています。
4) 教育委員会と連携した新任者研修 およびフォローアップ研修	18区区版センターの新任者を対象とした新任者研修(4～5月頃)およびフォローアップ研修(2～3月頃)を教育委員会と連携して開催しました。	18区区版センターの新任者	センター機能・役割についての理解が重要であることから(区版センターヒアリングより)、フォローアップ研修では、第3回ネットワーク会議での語りの手法を用いて取り組みました。	新任者研修 日時：4月26日 9:00～17:00 受講者数：21名 フォローアップ研修 日時：2月23日 9:00～12:00 受講者数：10名 ※市民活動支援課・教育委員会・社会教育コーナーとの合同による企画・運営のもと実施。	成果 センター事業に携わるうえで必要な知識を幅広く身につけるだけでなく、相談やコーディネートを行っていく自分自身についてよく知る必要があるため、内省的に振り返り、それをお互いに聴き合うことを日常にしていくことの必要性を理解し、これからの自身のセンターにおける役割について主体的に考え、動くことの大切さを学ぶ機会となりました。 課題 区版センターに求められる役割などを捉え、それを実現するためのセンター職員への意識付けの場として研修内容をさらに充実させていく必要があります。
5) 「センター運営Q&A集」の更新	ネットワーク会議での内容や、区版センターを対象とした調査の結果をもとに、「センター運営Q&A集」を更新しました。	・区版センター職員 ・地域振興課センター担当職員	第4回で取り上げた「コーディネート」に関する項目を新たに追加しました。(未実施)	年度末実施予定	成果 個人・団体等のコーディネートが益々期待される中で、各区のコーディネートに関わる取り組みや工夫を共有することができました。 課題 センター職員も多くが入れ替わり、これまで蓄積してきたQ&A集が活用されていないという課題に取り組む必要があります。
6) NPO設立講座の開催支援	各区との共催で、NPO法人設立講座を開催します。各区のセンターが自立的にNPOの運営に資する講座・研修等を実施できるよう支援しました。	・区版センター職員 ・地域振興課センター担当職員		瀬谷区 5月9日開催 参加者：11名 磯子区 2月19日開催 参加者：66名	成果 NPO法人設立を目指す方々が、NPO共通の理念や書類の作り方など入門的な知識を身につけていただく機会になったと思われます。また区版センターと共催することで、NPO法人設立の基礎的な知識が職員にも身につく効果がありました。 課題 方面別3区開催を目指しましたが、開催希望区は、2区に留まりました。

6.共同オフィス事業

入居する団体同士の学びあい・育ちあいが進む場づくり・自治的な運営をコーディネートしつつ、互いに刺激し合い高め合う共同オフィスを目指しました。本オフィスに入居している団体の特徴をより捉え、団体や企業との連携を支援できるようにしていく必要があります。

内容 特徴	今年度特に取り組んだこと	実施したこと	成果と課題
実施したこと 1) 交流の促進 入居団体「ニーズ調査」を実施し、入居団体が共同オフィス事業に何を求めているのかを十分に把握し、団体個別の支援に活かし、共通課題については交流会等で情報共有しました。また、新旧入居団体の交流を深め、互いの団体について理解を深める場として、オープンミーテを開催しました。 2) 広報の支援 ・メールマガジンにて、団体のイベント告知の広報を行いました。 ・入居団体の紹介パンフレットを発行し、横浜市内の各施設へ送付しました。 ・大規模発送の際に、団体のチラシやリーフレットを同封することで、広報を行いました。 3) 日常的な相談対応・情報提供	交流の促進 ・年度初め入居団体の入れ替えにより、レイアウトを変更しました。ズーミールームを廃止したことで、一般利用スペースと共同オフィスのスペースを分けることができました。また、机のみのブースに関しては、入居団体の意見交換により、席を個別化、独立化しました。 ・5 階会議室に加え、共同オフィス内のミーティングスペースを予約可能としました。予約方法については、共同オフィス内にカレンダーを設置し、入居団体同士で管理を行いました。 ・昨年度と比較し、入居団体の利用回数が多く、入居団体同士が日常的に交流する様子が見られました。 ・パートナーシップミーティング、協働提案スキルアップ道場等のイベントをご紹介します、参加いただきました。 日常的な相談対応・情報提供 ・予約制専門相談を活用いただき、認定 NPO 法人の取得、助成金申請書の書き方、組織運営について、など相談を受けました。	1) 交流の促進 ・第 1 回オープンミーテ： 4 月 24 日（月）18:00～19:15 15 人（8 団体、うち事務局 4 名） 内容：自己紹介、共同オフィスの使い方について、会議室の予約について意見交換、終了後、希望者は懇親会 ・第 2 回オープンミーテ： 8 月 9 日（水）18:00～19:10 9 名（5 団体、うち事務局 4 名） 内容：横浜市市民活動支援センターの一時滞在施設について、今年度のこれからの事業について、終了後、希望者は懇親会 ・活動報告書&卒業発表会 3 月 23 日（金）18:00～21:00 2) 広報支援 6 月発送：3 団体 8 月発送：2 団体 12 月発送：2 団体 3) 日常的な相談対応 相談対応や日常的な窓口での情報提供を行いました。	成果 日常的な声掛けや、事業の紹介を通し、普段から気軽に窓口スタッフに相談できる雰囲気が作られました。 課題 新規入居団体へのヒアリングだけでなく 2 年目・3 年目団体に関してもニーズ等のヒアリング実施を検討します。

7.施設管理事業

多くの方が訪れ活動しやすく居心地の良い場（ハード面）であると同時に、活動について相談し、発見やつながりを得られるなど、市民活動の拠点となる場（ソフト面）でもあるよう、引き続き機能の充実を図りました。日報・シフト交代時、全員会議での共有のみならず、口頭でもこまめに共有することで、課題のある利用者への対応などを連携して進めることができました。

一方、公共施設の特性から、本来の利用目的を超え、居場所として長時間利用される方が増えてきたことについて、どう対処していくのか、考えていく必要があります。

内容 特徴	今年度特に取り組んだこと	実施件数	成果と課題
1) 職員の相談対応力のさらなる強化 2) 場の提供 ・利用者アンケートの実施、アンケートで要望のあった意見への対応、備品の整備や掲示物の見直し ・「お気づき箱」と利用票へいただいたご意見への取組み ・ギャラリーコーナーの運営 ・1階エントランスのホワイトボードを活用し、一目でわかる情報を発信 ・「利用のご案内」や「センターパンフレット」の更新・改訂 ・整理整頓、清掃の徹底（全職員で施設内・備品等のクリーニングを実施） 3) 危機管理（災害に対応マニュアルの更新、感染症予防研修、AED研修等）	・共同オフィスレイアウト変更に伴い、5階ミーティングスペースのレイアウトを変更しました。具体的には、NPO法人閲覧書類棚を移動し、ミーティングスペースをオープンにすることで、空間を広く使用できるようにしました。 ・他施設より譲り受けたテーブルを活用し、より話し合いや作業がしやすい空間づくりを目指しました。 ・可動式のパーテーションやホワイトボードを設置することで、利用人数によってスペースを区切ることが出来る様に、配慮しました。 ・12名以下の部屋の利用が多いことから、5階ミーティングスペースの1角を「ズーミースペース」として、登録団体あれば、月2回まで予約利用できるようにしました。抽選予約で落選した団体や、少人数ではあるけれども場所を確保しておきたい団体に利用をお勧めし、活用につながりました。 ・季節に合わせて、5階入り口や受付窓口にて装飾や、イベントの案内をおこないました。利用者が作成した折り紙を装飾することで、利用者との交流が生まれました。	・年間利用者数：4,540人/月 54,478人/年（2016年度実績：55,866人、目標：57,000人） ・ワークショップ広場：公開講座やイベント等の開催で21.6コマ/月（目標24コマ/月以上利用） ・ギャラリーコーナー：6団体（目標15団体・機関以上利用） ・利用者目線に立った接遇：利用者アンケート接遇評価（4段階評価）3.6（前年度3.6） ・危機管理に関する職員研修 1 災害時帰宅困難者一時滞在避難施設研修・HUG訓練 6月13日（火）18:00～21:00実施 2 AED研修 1月21日（日）15:00～17:00 3 感染症予防研修 1月30日（火）16:00～17:00	成果 ・施設利用の予約状況や抽選結果の倍率、利用の混雑する時間帯などを分析したうえで、より多くの方に場を活用いただけるよう、案内方法やメニューを整備しました。 課題 ・利用者数が若干減少しました。 ・利用率の低い時間帯や曜日などについて、活用しやすい整備に引き続き取り組みます。

8.協働の推進

2017 年度は、「社会的課題の解決に向けたつながりのベースづくり」の検証や認定・指定 NPO 法人ネットワーク会議においても、より対等な協働が各セクター間で進むよう、積極的に問題を共有し、課題解決に向けて動きました。

内容 特徴	対象	今年度特に取り組んだこと	実施内容	成果と課題
(1) 協働契約ハンドブックの協働作成 協働事業に対する意識を一層醸成する役割を市民活動支援課と連携して進めました。	市民活動団体、市内 NPO 法人、行政機関	開かれた意見出しの機会として、協働契約についての考え方や手順などをまとめた「ハンドブック」を参加者全員で考える機会「協働契約ハンドブックワークショップ」を開催しました。 日時：2017 年 12 月 26 日（火）17:45～20:45 参加者：16 名	・協働契約の当事者参加検討会の実施。 ・「AMPERSAND 協働実践 市民と市職員のための協働契約ハンドブック」の作成・発行 ・協働契約ハンドブックワークショップ“キラキラ化計画”の開催	成果 開かれた場（ワークショップ）で意見出しの機会を設けたことで、事業を行う主体同士が「協働の原則」に則って「大事にしたいこと」をよく話し合い、妥協ではなく合意できた内容を契約書として文章に落とし込むことの重要性等、現場の声を参加者全員で共有することができました。 その結果、ハンドブックの内容について、より進化・深化させる提案が多く出され、市民にも納得感のあるハンドブックになったと思われます。 課題 ワークショップの中で、「日々の忙しさで協働実施後の振り返りがおろそかになってしまった」という声もあり、契約前の注意点や振り返りの大切さを共有できる場が必要と思われます。
(2) 市内認定・指定 NPO 法人等のネットワークづくりへの協力	市民活動団体、市内 NPO 法人、行政機関	認定通知式での交流促進 市民活動支援課が NPO 法人を認定・指定する際に、同時期に認定・指定される法人の交流促進や支援センターとの今後の連携の可能性を視野にいたした交流の場を設けました。	・認定通知式の開催 4 月：ST スポット横浜 10 月：神奈川県就労支援事業者機構	成果 認定通知式を市民活動支援センターの会議室で行い、職員も同席し、センターの存在を認識してもらうと同時に、活動についてのヒアリングの場を設けることで、団体とのつながりづくりにもなり、今後支援センターをハブとして、多様な主体とつなげるための第一歩となりました。 課題 認定・指定 NPO 法人同士及び行政・センターとのつながりを一時的なものとせず、定期的なフォローアップによりニーズを把握し、多様な主体とつなげるための機会を設ける必要があります。

9.自主事業団体との連携および協力

自主事業団体と運営事業団体との対話の場を設け、共感できる信頼関係を築けるよう努めました。

内容 特徴	対象	今年度特に取り組んだこと	実施内容	成果と課題
1) 実施事業をより多くの方に周知するため、当センターの情報媒体(発送物同封、ホームページ、メールマガジン)から積極的に情報発信しました。 2) 運営事業団体と自主事業団体間で、事業の進捗や情報を共有するため、積極的に企画会やイベントに参加しました。	自主事業団体	・企画実施前に相談・意見交換をし、積極的に企画会へ参加しました。	・当センターの情報媒体(発送物同封、ホームページ、メールマガジン)からの情報発信 ・事業の企画会への参加 ・開催イベントへの参加	<u>課題</u> アクションポート横浜と当センターで、企画や事業の進め方について意見交換を行ったことで、企画会への主体的参加につながりました。また横浜コミュニティカフェネットワークのイベント（コミュニティカフェフォーラム）に参加し、課題や成果、状況をつかむことができました。 <u>課題</u> 活動団体が集まることで自らが課題解決に向かう力を培い、組織的な基盤をつくることにつなげるには、事業の枠組みに工夫が必要と思われます。



にしく市民活動支援センター にしとも広場

2017(平成 29)年度 事業報告書

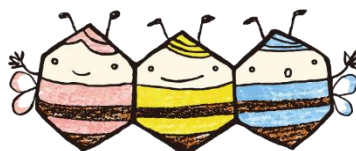
管理運営：認定特定非営利活動法人市民セクターよこはま

I. 運営方針

ここに来れば「何かができる」「何かが始まる」センターを目指し、まずは「実際の活動につながるきっかけ」を例年以上に増やすこと、そして、その「きっかけ」を「もっと幅広い人たちに知ってもらう」ことが必要と考え、機会創出と情報発信に注力しました。

II. 重点事業

- 1人ひとりの「何かを始めたい」を実際の活動につなげる工夫をし、機会をつくりました。
 - ・ 「昼どきコンサート」として、音楽ボランティアの方々による、誰でも気軽に立ち寄れるイベント（毎月開催）を始めました。初めて当センターを訪れたという方が多く来られ、これを機会に、他の講座や活動に参加する方も増えてきました。また、演奏者側でも、出演を機に周知がすすみ、活動場所が広がる効果がありました。
 - ・ 「来て・見て・聞いての日」として、にしく街の名人・達人の披露の場でもあるミニ講座を実施しました。手芸や体操など様々な分野の講座を毎月1～2回開催することで、区民の方の興味をひき、初めての参加につながりました。
- 情報発信力を強化するべく、発信ツールを増やしました。
 - ・ カラー冊子の情報紙『にしとも広場』（年2回）、【NEW】簡易版情報紙『にしとも広場 mini』（年6回）、【NEW】『広報よこはま（西区版）』のコラム（年3回）、センター独自のフェイスブック、ホームページと、発信媒体を増やし、定期的に情報発信することで、より多くの区民の方に情報を届けました。特に、『にしとも広場 mini』は、当センターで開催するイベントを掲載し自治会町内会で班回覧をしたことから、地域の方に興味をもていただくことができました。



Ⅲ．事業ごとの計画

1．相談事業

◆ 相談機能の充実と日頃の会話から相談につなげる

昨年度に引き続き、誠実に一人ひとりと向き合い、その方の真のニーズを引き出す力、想像する力を日々の実践や研修で身につけ、職員の相談力をアップするよう努めました。また、定期的に利用される方々との日常的な会話や登録時のヒアリングからも、相談につながる糸口を見つけ、相談につながる関係づくりや、適切な情報提供ができるように心がけました。

1) 相談機能の充実

- ・ 相談件数実績は、546 件になりました。（前年度比 121%）

テーマごとの相談日を設けることで、相談しやすい場づくりを行いました。

- はじめの一步じっくり相談日/「何かやってみたい」、思いにじっくり向き合い一緒に考える相談日

- 団体運営なんでも相談日/諸手続きや労務関係まで、運営に係る事を気軽にできる相談日
- 一緒に考える相談対応を心がけ、相談の中から見えてくる真のニーズへの対応や、必要に応じ、地区センター、地域ケアプラザ、生活支援センター、社会福祉協議会などの専門機関との連携を図り、「つなぐ」役割を大切にしました。

- ・ 外国につながる子どもたちについて、日本語支援・学習支援の相談があったことを受けて、西区内の関係機関と検討を始めました。

2) 相談力の向上のための取組の実施

- ・ 職員全員で行う会議において、定期的に、最近 1 か月で行った相談対応の中の、気になる事例をピックアップして職員間で共有しました。実際に行った対応が良かったかどうか、もっと違う対応はできなかったか等職員間で話し合うことで、職員相互の意識のずれや認識のずれを修正し、より良い相談対応ができるよう取り組みました。

- ・ 職員研修において、相談対応における基本の 3 つのステップ（インテーク、コーディネート、クロージング）を再確認しました。

2017/9/26 「相談対話の基礎」講師：吉原明香氏（認定 NPO 法人市民セクターよこはま）

- ・ 活動に役立つ知っておきたいシリーズ【NEW】

活動団体、地域住民の方と一緒に学ぶ研修を開催し、共に学びながら基礎知識を高める機会を作りました。

	日時・場所	テーマ・内容
1	2017/12/12(火) 13:00-15:00 参加者：14名	『障害について 当事者から学ぶ』 当事者の方約10名に参加していただき、地域で暮らす中で感じていることや、希望をトーク形式で伺いながら、精神障害についての基礎知識を学びました。 講師：生活支援センター西 利用者 7 名、

		生活支援センター西 施設長 永瀬誠氏、職員2名 〈アンケートより〉 <u>平均点 86 点(100 点満点中)</u> ・今回のように当事者の思いをきける場がある講座を、また開催して欲しい。 ・インタビュー形式で複数人が講師として発表してくれたことで、色々な思いや状況を聞くことができて良かった。
2	2018/1/19(金) 13:00-15:00 参加者:17名	『認知症の人への理解と対応』 認知症についての基礎知識を踏まえたうえで、認知症の人と共に地域で暮らしていくため、また活動の場面で必要な対応方法を学ぶ。 講師:高齢者グループホーム 横浜ゆうゆう 施設長 井上義臣氏 〈アンケートより〉 <u>平均点 95 点(100 点満点中)</u> ・何度でも開催してもらいたい講座内容でした。 ・ロールプレイ、当事者の DVD など事例が良かった。 ・母の介護をする立場で有益な知識を得られました。今後活かしていきます。 ・DVD などもあり、わかりやすい講座でした。
3	2018/2/27(火) 13:00-15:00 参加者:10名	『いざという時役立つ 救急救命』 基本的な心肺蘇生法や、AED の操作を学び、いざという時に備えました。 講師:NPO 法人 JAEA 河波弘晃氏 サポート 1 名 〈アンケートより〉 <u>平均点 98 点(100 点満点中)</u> ・実技中心で、よかった。実践でも使えそうです。 ・実際の場を想定した訓練だったので、今後も役に立つと思った。 ・忘れないよう定期的に関心して欲しい。 ・AED の使い方は思ったより簡単だったので、体験してよかった。

2. 情報提供・発信事業

- ◆ 様々な情報提供のツールを使い、定期的、多面的に情報を発信しました。

今までは、年 3 回発行の情報紙『にしとも広場』での情報発信が中心でしたが、当センターの持つ情報や、当センターの周知をさらに促すために 3 つの紙媒体を活用しました。また、センター独自のフェイスブックを開設し、ホームページと合わせて活用しました。

1) 情報紙『にしとも広場』（カラー冊子・全 8P）の発行

- ・「共に暮らすまち」をコンセプトに、年 2 回、5,500 部（1 回あたり）を発行しました。
- ・区内外のユニークな取り組み、先進的な取り組みを中心に丁寧に取材し、これからの地域活動・市民活動に役立つ情報をわかりやすく発信しました。
- ・班回覧時に読みやすさを考慮し、左綴じ横書きに変更しました。

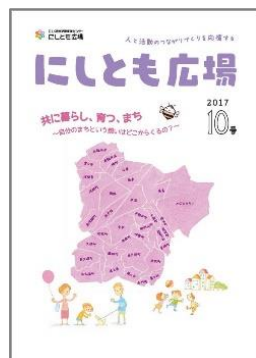
<特集内容>

第 10 号：「共に暮らし、育つ、まち ～自分のまちという想いはどこからくるの？～」

横浜市立大学准教授で、まちづくりや子育て支援の NPO 理事も務める三輪律江先生に、「共に暮らすまち」についてお話を伺いました。また、“地域に開かれた共有スペース”をもつ「藤棚のアpartメント」、西区内の取り組みを 2 例紹介しました。地域とつながりながら子どもが育つと、地域にとってどんな変化があるのか、また、一人ひとりが地域に対してどんな関わり方ができるのか、考えるきっかけとなりました。

第 11 号：「共に暮らすまち ～地域で活き生きイキメン's Life～」

地域での活動を活き生き楽しんでいる男性 3 名を取材しました。連動企画「地域で活き生き“イキメン”講座」開催告知と一緒に掲載するなど、地域活動や市民活動の第一歩を踏み出しやすいように紙面を構成しました。



<10 号>



<11 号>

2) 簡易版情報紙『にしとも広場 mini』(カラー A4 両面印刷) の発行【NEW】

- ・ オモテ面にはイベント情報や「西区街の名人・達人」登録情報、ウラ面には 2 ヶ月分のイベントカレンダーや「にしとも広場」からのお知らせなどを掲載し、年 6 回発行しました。
- ・ 広報には、情報紙『にしとも広場』と同様、自治会町内会の班回覧を活用しました。写真やイラストなどを効果的に使用し、分かりやすく、インパクトのある紙面づくりに努めました。



3) 『広報よこはま(西区版)』を活用した定期的な情報発信【NEW】

- ・ 『広報よこはま(西区版)』7・11・3 月号に、地域人材ボランティア「西区街の名人・達人」の活動を紹介するコラムを掲載しました。「西区街の名人・達人」の登録制度について、西区民に広く知っていただく機会となり、新たに登録する団体・個人が昨年度よりも増加しました。(2017 年度 18 件、2016 年度 4 件)



4) センター独自のフェイスブック開設【NEW】

- ・今までは運営法人のフェイスブックを活用し、イベント情報の告知や報告等を実施してきましたが、センター独自のフェイスブックを開始しました（8月31日～）。
- ・SNSを通じた情報収集が得意な世代も含めた幅広い層への情報発信を、よりタイムリーに行いました。



5) ホームページでの情報発信

- ・昨年度、リニューアルしたホームページを用いて、地域で開催されるイベント情報やボランティア募集情報など、タイムリーな情報発信を行いました。
- ・『にしとも広場 mini』など紙媒体でも、ホームページの存在をアピールしたり、フェイスブックと連動させるなど、ホームページへの誘導を行いました。

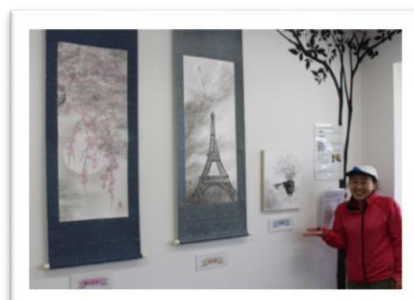
6) 展示スペースの活用

- ・地域人材ボランティアの更新時に、展示スペースの活用を呼びかけました。

ご自身の講座の期間に展示し、講座や作品についての周知を図る役割としても活用され、自主企画の講座で作成した作品と一緒に飾り、講師がSNS上で発信する場ともなりました。

- ・展示の様子を情報紙にしとも広場 mini に掲載し、周知を図りました。

展示利用者	展示物
吉田紅峯氏	水墨画の作品
tremani	てがたサンタのオーナメント
tremani	おりがみのクリスマス飾り
おりがみカフェ（にしとも広場）	おりがみカフェ製作作品「春」



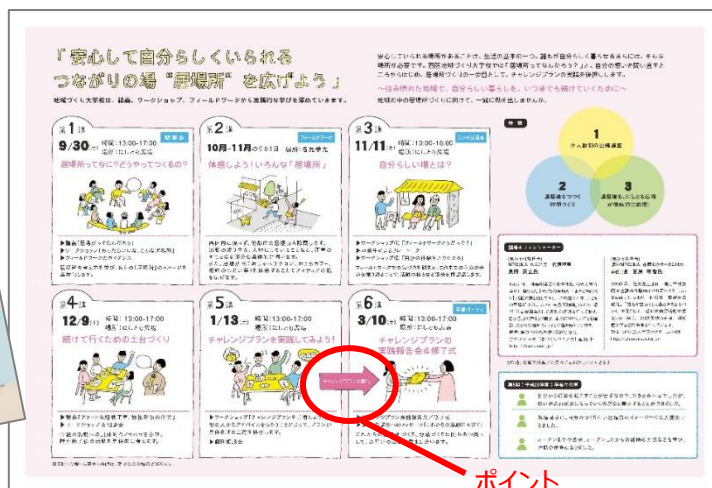
3. 活動ステップアップ・ネットワーク支援事業

◆ 活動者や団体の次のステップに向けた支援

日々活動する団体、個人に対して、ステップアップの機会や活動に新たな視点が入るような情報を提供しました。

1) 地域づくりの人材を養成する講座「西区地域づくり大学校（以下、西区地域大）」の開催

- ・ 本講座は、①講座後もつづく仲間づくり、②少人数制の連続講座、③講座終了後も“にしとも広場”が継続的に受講生を応援することを特徴とし、全 6 回を区政推進課と協働で開催しました。
- ・ 日頃より身近な地域でつながる必要性が高まっていることを背景に、昨年度に続き、「居場所づくり」をコンセプトに、テーマは「まちのホットな“つながりの場”づくり」としました。全講座を通じて、居場所づくりの一步目となる、チャレンジプランの実践を後押しする内容としました。また、他区も含めた、先駆的な事例の現場を実際に訪問し学ぶ機会を設けたり（第 2 講）、卒業後も受講生同士がつながり合えるように、コミュニケーションの時間を多く取り入れました（各講でワークショップ）。
- ・ 定員は、受講生同士のつながりや、受講後のフォローアップ体制を密にするため、今年度も 15 名としました。定員を上回る応募があり、抽選の結果、19 名の方が参加しました。参加者の年齢は、20 代から 70 代と、幅広い年代の方にご参加いただきました。内訳（20 代 1 名、30 代 3 名、40 代 4 名、50 代 1 名、60 代 8 名、70 代 1 名、不明 1 名）



	日時・場所	テーマ・内容
1	2017/9/30(土) 13:00-17:00 @にしとも広場 受講者数:15 名	『テーマ:居場所ってなに? どうやってつくるの?』 ・オープニング(開講の挨拶:早川恵庸氏(西区役所副区長)、受講生自己紹介、ガイダンス) ・講義:「居場所ってなんだろう?」 講師:長田英史氏(NPO 法人れんげ舎 代表理事) ・分かち合いワーク
2	①2017/10/14(土) ②2017/10/15(日) ③2017/10/21(土) ④2017/10/28(土)	『テーマ:体感しよう! いろんな居場所』 各回 2 時間程度。見学を行ったほか、活動についてのお話、質疑応答を行いました。 ①「もりのお茶の間」(横浜市金沢区) 受講者数:6 名 ②「岡さんのいえ TOMO」(東京都世田谷区) 受講者数:3 名 ③「鎌倉てらこや」(鎌倉市大船) 受講者数:3 名 ④CASACO(横浜市西区) 受講者数:7 名
3	2017/11/11(土) 10:00-16:00 @にしとも広場 受講者数:11 名	『テーマ:自分らしい場とは?』 ・現地見学ふりかえりワーク ・卒業生パネルトーク「自分のやりたいことをどう実現していくか?」 コーディネーター:吉原明香氏(認定NPO法人市民セクターよこはま 事務局長)、パネリスト:【第 5 期卒業生 3 名】奥井 利幸さん・迫 祐子さん・高橋 淳子さん ・ランチ交流会 ・自分の体験をふりかえる(個人ワーク、グループワーク) ファシリテーター:吉原明香氏
4	2017/12/9(土) 13:00-17:00 @にしとも広場 受講者数:14 名	『テーマ:続けて行くための土台づくり』 ・講義「フラットな組織運営/情報発信の仕方」講師:長田英史氏 ・講義「チャレンジプラン作成のコツ」講師:吉原明香氏 ・個人ワーク:チャレンジプラン作成 ・個別相談会:アドバイザー:長田英史氏
5	2018/1/13(土) 13:00-17:00	『テーマ:チャレンジプランを実践してみよう!』 ・相談用紙記入/チャレンジプラン修正

	@にしとも広場 受講者数:15 名	・グループワーク:「チャレンジプランを共有しよう」 ・講義「ニューズレターの作成について」 講師:吉原明香氏 ・個別相談会 ・個人ワーク:ニューズレター(準備号作成) ・全体共有
6	2018/3/10(土) 13:00-17:00 @にしとも広場 受講者数:12 名	『テーマ:チャレンジプランの実践報告会&修了式』 ・チャレンジプラン実践報告会 ・講義「受講生へのメッセージ:これからの活動に向けて」 講師:長田英史氏 ・修了式 ★修了者 14 名



<アンケートより>平均点 82.7 点 (100 点満点中)

- ・自分の所属している団体での運営の仕方に対して参考になりました。
- ・今これからの課題への解決策やヒントをもらえたり、今後もお世話になれる場と出会えて心強い気持ちになりました。
- ・たくさんのポジティブな変化があった。子どもたちに新しい遊びの場を提供して、子どもたちにもお母さんたちに

も喜んでもらえて自分もうれしくなる、という良いサイクルが周りに出来た。

- ・同じ活動のメンバー全員で受講したので、共通認識が持てて良かった。この講座で月に1回顔を合わせるので、より仲間感が強まった。
- ・軽い気持ちで受講し、当初は具体的な場づくりのイメージもありませんでしたが、チャレンジプランを実践するなかで、おぼろげながら、今後の方向性が見えてきた。この講座がなければ成し得なかったと思います。
- ・様々なキャリア、年代、目的…の人とのグループワークはとても新鮮だった。
- ・チャレンジプランを実践して、達成感を得られたことが自信につながった。

2) はじめての地域活動・市民活動応援講座（西区地域大プレ講座）の開催

- ・子どもたちの「居場所づくり」に20代を捧げたと語る長田英史氏を講師に迎え、「子どもの居場所づくり」の本質と実践のヒントを学ぶことができる講座（タイトル：「子ども居場所・あそび場づくり」～子ども自身の力で進行する集団あそびの活動～）を開催しました。
- ・講座前半は長田英史さんの講演、後半はグループワークをしながら、子どもの居場所についてグループで考え、共に学び合いました。
- ・参加者からは、「自分とは別の視点で場づくりの課題を考えるきっかけになった」「自分がやっている場への振り返りにつながった」などの声が聞かれました。
- ・本講座に参加した受講生4名が、西区地域大へ参加申込をし、地域大のプレ講座としても大きな役割を果たしました。



日時・場所	内容
2017/8/20(日) 13:00～16:00 @にしも広場 受講生 18 名／申込 22 名	・オープニング(自己紹介) ・講演「子どもの居場所・あそび場づくり」 ・グループワーク、全体共有

<アンケートより> 平均点 95.3 点 (100 点満点中)

- ・今後自分が活動していくにあたって「まさに！」の講座でした。
- ・自分がやっている場へのふりかえりにつながった。
- ・居場所づくりをするときの問題点・課題（子どもの問題、家庭の問題）などについても、もっと詳しくお聞きしたかった。また居場所によって地域がどのように変わったかのお話を聞きたい。
- ・いろんな方の話を聞けて楽しかったです。自分とは関係ない立場の方の話はとても新たな視点に気づかせてもらえました。参加して良かったです。
- ・“子どものあそび場”をと思い、活動していたが、まずは大人が居心地の良い場を作ることが大切だと感じました。
- ・子どもたちに何かさせてあげたいと考えていらっしゃる方がこんなに大勢いることを、とてもうれしく思いました。



3) 団体同士のネットワークづくり

・西区民まつりへの参加

当日は 348 名の方にご来館いただきました。（前年度比 169%増）

藤棚商店街、名達の会、NPO 法人はぐつとの協力を得てスタンプラリーを開催し、西区街の名人・達人登録者に呼びかけを行い、講師の作品をスタンプラリー景品として寄贈を依頼、他の景品も地域の藤棚商店街からの寄贈や咲弘洞（居場所づくり）、夢づくり三番館（障害者就労移行支援施設）からの購入など地域資源を活用しました。

また、西区街の名人・達人登録者（TH's ファンタジー）による音楽コンサートや、よこはま布絵本ぐるーぶ協力による布のおもちゃスペース、横浜ラポールの字幕付きの映像を流し、体験を通して団体や施設を知る機会を作りました。

当日は、登録団体の「ぐるめ西」や一般市民の方に、ボランティアとして協力いただきました。

日時・場所	テーマ・内容
2017/11/5(日) 10:00-15:00	目的：子育て世代のお母さんたちにしとも広場を知ってもらう。 内容：①スタンプラリー（参加総数 239 名） ②音楽コンサート（参加者数 40 名） ③チョークあそび（参加者数 56 名） ④布絵本とおもちゃ、字幕付き映像上映 ⑤活動団体紹介





・交流イベント おりがみカフェの開催

西区街の名人・達人に登録している、おりがみ講師 4 組に企画段階から参加してもらい、作風や年代の違いを越えてイベントを開催。地域のおりがみ好きの方との交流、講師同士の交流を図りました。また、参加者全員で作ったおりがみで 1 つの作品を作り、地域の希望する施設へネットワークを通じ情報を提供し、展示先を募集しました。

・協力：西区社会福祉協議会（ボランティアコーディネート）

イベントの活動補助や、カフェコーナーのボランティアについて、西区社会福祉協議会発行 西区ボランティアセンターニュース「花スイセン」にて募集しました。3 名の希望があり、当日 1 名が参加しました。

日時・場所	内容
2018/3/25(日) 10:00-12:00 参加者:35 名 ボランティア:2 名	内容: 4つのブースで、それぞれの講師によるおりがみ教室。 みんなで作りあげる折り紙作品 講師同士情報交換・交流会 講師:講師 4組6名 +補助1名 米岡 泰氏、福原 捷子氏、芹澤 洋子氏、Tremani (3 名) 協力:西区社会福祉協議会





4. はじめての地域活動・市民活動応援講座

- ◆ 一人ひとりの「何かを始めたい」思いや、その人の持つ特技を生かし、実際の活動につながるよう努めました

当センターには、「何かを始めたい」という思いを持って来館される方がいます。また、実は隠れた特技をお持ちの方々も多く来られます。思いや特技を活かした活動の「はじめての一步の場」として、当センターの活用を提案しました。

1) 日々の相談業務での丁寧な対応

- ・ 明確な「何か」は見つけれられていないけど、「何かを始めたい」という思いを持つ方の、「思い」を「活動」につなげる支援、すぐに「何か」を見つけられなくても、定期的に情報を提供したり、集まる機会をつくったり、緩やかに継続的長期的につながりを持ちながら、それぞれの可能性に合った活動につなげるために、一人ひとりに対する丁寧な対応を心がけました。

2) 特技を活かした発表の場づくり

- ・ 特技を活かした活動の「はじめての一步の場」として、当センターの活用を提案しました。
- ・ 活動者は、発表の場を得ることで活動が広がりました。一方で、参加者は、活動者をみて自分もやりたい意識をもつという、相乗効果がありました。

●街の名人・達人によるミニ講座（「来て・見て・聞いている日」）の開催【NEW】

日付	内容	講師	参加人数
2017/7/16(日)	つまみ細工の髪飾り	塚本 利花氏	7 名
2017/9/3(日)	はじめての水墨画	吉田 紅峯氏	5 名
2017/10/6(金)	ハロウィンのロゼット風ブローチ	tremani	19 名
2017/10/12(木)	太極拳のゆったり体操	内海 一恵氏	7 名
2017/11/20(月)	てがたサンタのオーナメント	tremani	9 名
2017/12/3(日)	ベリーダンス	高畑 住袈氏	7 名
2018/2/6(火)	日本舞踊エクササイズ	三浦 妙子氏	6 名
合計			60 名



●「昼どきコンサート」の開催【NEW】（毎週第4月曜日 12：15～12：45 開催）

日付	出演者	参加人数
2017/5/22(月)	La Seed	35 名
2017/6/26(月)	La Seed	42 名
2017/7/24(月)	La Seed	30 名
2017/8/28(月)	ママ音楽ユニット ♪ショコラッティ♪	40 名
2017/9/25(月)	La Seed	33 名
2017/10/23(月)	TH's ファンタ sy	23 名
2017/11/27(月)	音楽ボランティア 一座にしエイチファイブ	29 名
2017/12/25(月)	ママっこプラスにし	53 名
2018/1/22(月)	TH's ファンタ sy	24 名
2018/2/26(月)	加島 薫氏（マリンバ）	52 名
2018/3/26(月)	金子敏郎氏（カントリー＆ウェスタン）	39 名
合計		400 名



●「うたごえ広場」の開催【NEW】

2ヵ月に1回、来館者の少ない日曜日に、誰もが気軽に参加できるイベントとして「うたごえ広場」（14：00～16：00）を開催しました。定期的に行うイベントで、参加者同士が知り合える、何となく顔見知りになれるなど、職員が橋渡し役になりながら、つながりづくりの場になるよう対応しました。

日付	出演者	参加人数
2017/7/9(日)	音楽ボランティア 一座にしエイチファイブ	18 名
2017/9/10(日)	音楽ボランティア 一座にしエイチファイブ	32 名
2017/11/5(日)	音楽ボランティア 一座にしエイチファイブ	45 名
2018/1/21(日)	音楽ボランティア 一座にしエイチファイブ	22 名
2018/3/11(日)	音楽ボランティア 一座にしエイチファイブ	45 名
合計		162 名



4) 地域振興課が実施する生涯学習・市民活動支援講座「わが町、西区を知る講座」第2期の運営支援

- ・ まち歩きボランティアガイドとして、さくらフェスタ（2018年4月）でガイドデビューすることを目指した全8回講座について、企画・運営に協力しました。

★修了者 12名

5) 応援講座

- ・ 地域づくり大学卒業生の相談を受け、にしとも広場で「みちあそび」の企画開催を支援しました。
- ・ NPO法人はぐっと、よこはまユースとも連携を図り、当日のスタッフやボランティアとして関わりを得ました。

開催日時	内容	参加数
第1回 2017/7/23(日) 10:00～12:00	チョークあそび、水あそび、カプラ、新聞紙あそび NPO 法人はぐっとよりスタッフ、ボランティア参加 よこはまユースより中学生ボランティア参加	49名
第2回 2017/9/10(日) 10:00～12:00	チョークあそび、水あそび、カプラ、新聞紙あそび NPO 法人はぐっとよりスタッフ、ボランティア参加 市民ボランティア参加	39名



5. 地域人材ボランティア事業（地域人材ボランティア「西区街の名人・達人」）

◆ もっと地域で活用されるボランティアを目指して

今年度は3年毎の更新の年であり、それに合わせ、事業名を「生涯学習ボランティア『西区街の名人・達人』」から「地域人材ボランティア『西区街の名人・達人』」に変更しました。地域ニーズの掘り起こしのほか、より活動が活性化するように心掛け、コーディネートしました。

1) 更新

- ・ 更新に合わせ、「登録説明会」を平日昼・夜、土曜昼・夜と計 4 回実施し、登録者の思いや活動内容を聞くとともに、人材ボランティアという意味の確認や、地域で活躍するボランティア同士の交流の機会としました。
- ・ 登録後は、デザイン性を加味したガイドブックを作成し、区内施設各所や市内の各区支援センター、そして希望者に配布し、周知を図りました。（更新登録 108 件）

2) 新規登録の促進

- ・ 更新に合わせ、新規登録の呼びかけも積極的に行いました。
- ・ 広報よこはまのコラム（年 3 回）にて新規登録の方を紹介し、「地域人材ボランティア」の周知をはかり、新規登録の掘り起こしをしました。
- ・ 今年度の新規登録は、18 件となりました。（昨年度 4 件）

3) 「地域人材ボランティア『西区街の名人・達人』」のコーディネート（コーディネート実績 47 件）

- ・ それぞれの長所を活かしたコーディネートができるよう、活動先やコーディネート先に出向き「地域人材ボランティア」の活動の様子を知る機会をつくりました。
- ・ 「昼どきコンサート」、「うたごえ広場」、「来て・見て・聞いての日」等でも、「地域人材ボランティア」の活躍の場を作りました。また、イベント開催時に活動の紹介やイベントチラシを配布し周知に努めました。
- ・ コーディネートの相談があった際、単なるコーディネートにとどまらず、相手のニーズを丁寧に聞き、その地域や活動が活性化するコーディネートを目指しました。

4) 「地域人材ボランティア『西区街の名人・達人』」の更新に伴い、にしとも広場での説明会、活動内容の聞き取りを行い、ホームページ掲載情報の更新を図りました。

- ・ 新規で登録があった時は、速やかにホームページの検索データベースに追加するとともに、ホームページでも紹介しました。
- ・ 広報よこはま西区版のコラム欄で、年 3 回新規登録の方を紹介しました。（再掲）

6. 区内施設等との連携による地域支援

◆ 地域情報の共有と連携で、地域力アップを目指しました

昨年度は、各施設へのヒアリングや連携会議を通して、地域情報を共有する必要性と、施設同士の強みを活かした連携の必要性を再確認しました。これをもとに、今年度は具体的な連携に取り組む機会として、引き続き地域振興課、西区社協と連携し、施設間連携会議を主催するとともに、当センターも積極的に関係部署・区内施設と連携を進めました。

1) 区民利用施設等との連携会議の実施

- ・ 会議の名称を、「ゆるとも西」と決定しました。
- ・ 年 2 回、連携会議を実施しました。
- ・ 「ゆるとも西メーリングリスト」を始動し、情報共有を促進しました。

	日時・会場	内容
第1回	2017年7月27日(木) 14:00～17:00 @にしとも広場 参加者:16 施設 19 名 オブザーブ:10 名 (地域振興課、福祉保健課、高齢障害支援課、市民局市民活動支援課、西区社会福祉協議会)	・参加者自己紹介 ・講義「ニーズや課題、スケジュールを共有してセカンドステップへ」 吉原明香氏（横浜市市民活動支援センター責任者） ・自主事業発表大会 各施設の年間事業スケジュールを事前提出してもらい、それを冊子にして当日参加者に配布、順に事業内容を発表。 ・グループワーク「連携を探る」 気になる事業⇒「つながりカード」やりとり ＜アンケート結果より＞ 全員が連携会議開催を「よかった」と感じ、今後の連携について「具体的にはなかったが何かできそう」と回答。 ＜共催＞西区社会福祉協議会
第2回	2017年12月22日(金) 15:00～17:00 @にしとも広場 参加者:14 施設 13 名 オブザーブ:12 名 (地域振興課、福祉保健課、高齢障害支援課、西区社会福祉協議会)	・情報提供 西区高齢・障害支援課「西区の現状と課題(高齢分野)」 ・事例紹介 NPO 法人はぐつと(スマイルポート)「みちあそび」 横浜市中心図書館「読み聞かせボランティア養成講座」 ・つながりワーク コーディネーター／吉原明香氏（横浜市市民活動支援センター） 「視点を変える、見方を変える、プラスをオンする」 「来年度力を入れたい事業を語ろう」 ＜アンケート結果より＞ 全員が連携会議開催を「よかった」と感じ、5割が「連携に向け具体的な話ができた」、4割が「なにかできそう」と回答。 ◆つながりワークで出た「事業内容」「感想・イネ」「関与できそうなこと」を一覧にし、メーリングリストで共有した。他グループの意見も参考になると好評であった。 ＜共催＞西区社会福祉協議会

2) 区役所関係課・区内施設等との連携

- 関係各課、各所主催の会議に積極的に参加し、情報共有や課題解決に向けての検討を行いました。
- ・ 福祉保健課と西区社会福祉協議会が事務局の「にこまちプラン推進部会」のうちの下記部会
「ボランティア部会・市民活動部会（にこまちボランティアキャンプ）」（年5回）
「児童部会（年7回）/子どもたちの現状と地域ができることを考える勉強会（年1回）」
- ・ 西区社会福祉協議会「ボランティア・市民活動分科会」（年10回、オブザーブ参加）：ボランティア団体との関係構築、にしとも広場の周知に努めました。
- ・ 「地域センター会議」（年6回）：地域課題を一緒に解決できる西区らしいつながりや仕組みを検討しました。
- ・ 「西区読書活動推進連絡会議」（年2回）：読書活動推進のための事業等について検討しました。
- ・ 「西区定例支援調整会議」（第3回より参加）：区役所内外の連携推進に向け情報共有しました。

- 区内施設と連携し、下記事業を実施、共催・協力しました。
- ・ 戸部本町地域ケアプラザ「認知症サポーター養成講座」（会場／藤棚ライブステーション）
- ・ 横浜市中心図書館「未就学児向け読み聞かせボランティア養成講座」（会場／にしとも広場）
- ・ 生活支援センター西「精神障がいについて当事者から学ぶ」（再掲）
- ・ NPO 法人はぐっと、よこはまユース「みちあそび」（再掲）
- ・ 西区社会福祉協議会「おりがみカフェ」（再掲）

7. 場の提供

◆ 様々な人が集い、出会うことで何かが始まるセンターへ

2017 年度は、センターを知っていただく事に重点を置き、様々な世代の方向けのイベントを開催、足を運んでいただく機会を増やしました。毎月のイベントで顔見知りになった方が、誘い合わせてセンターを利用したり、「来て・見て・聞いている日」で活動の発表を行い、その後自主企画を立ち上げるグループも生まれました。職員は暖かく丁寧な対応を心掛け、気軽に足を運べるセンターを目指しました。

1) 人が集まる場所づくり

- ・「昼どきコンサート」【NEW】を開催し、月に一度、ボランティア団体の発表の場、地域の方の交流の場を作りました。（再掲）
- ・ 2 ヶ月に 1 回、来館者の少ない日曜日に、誰もが気軽に参加できるイベントとして「うたごえ広場」【NEW】を開催しました。定期的に行うイベントで、参加者同士が知り合える、何となく顔見知りになれるなど、職員が橋渡し役になりながら、つながりづくりの場になるよう対応しました。（再掲）
- ・「来て・見て・聞いている日」【NEW】を開催し、西区街の名人・達人の発表の場と共に、興味ある講座を通してセンターを知ってもらう機会を作りました。（再掲）
- ・「みちあそび」「区民まつり」「おりがみカフェ」では、子どもたちや、子育て世代の方も参加しやすい内容になるよう工夫し、センターへ足を運んでもらう機会を増やしました。（再掲）

2) 居心地のよい場づくり

- ・ 引き続きコーヒーコーナーとキッズコーナーを設け、居心地の良い空間を作りました。キッズコーナーは来館者に乳幼児連れの方が増えた事を受け、人工芝からマットへ変更し、より安全に衛生的にご利用いただけるよう工夫しました。また、おもちゃも新しく増やし、活動の合間や来館時にくつろぎやすい空間を創りました。
- ・ 予約ボードやテーブルサインで活動場所がわかるよう工夫し、寒い冬場にはひざ掛けを準備し、快適に過ごしていただけるようにしました。
- ・ 配架しているチラシの中から、おススメ情報をピックアップして、入り口の掲示板に貼り出し周知を図りました。
- ・ センターに立ち寄られた方に、情報誌や直近のイベントチラシなども活用し、センターを利用する活動の積極的な呼び掛けました。



3) 設備や什器の定期チェックによる事故防止の徹底

- ・ 月ごとに点検項目を決め、設備や機材を点検しました。安心して利用できる環境となるよう、事故を未然に防げるように留意して業務に取り組みました。

4) 利用者・関連施設等との意見交換会の実施（2018/2/2 10:00~13:00）

- ・ 下記 7 名の方に参加いただき、当センターの運営について、また地域の現状やニーズについて、様々なご意見をいただきました。

第五地区自治会連合会会長 平野周二さん

羽沢西部自治会会長 米岡美智枝さん

西区在宅介護者のつどいあけぼの会代表 竹下淳子さん

にしく名・達の会 会長 服部和男さん

NPO法人西区はーとの会理事長 三宅義子さん

スマイルポート施設 山田美智子さん

地域活動ホームガッツ・びーと西所長 阿部浩之さん

<ご意見より>

- ・ にしとも広場は、いろいろな情報発信ツールを持っているので、フル活用して欲しい。
- ・ 地域の会館を使って出張コンサートやイベントを開催して欲しい。
- ・ 多様な人達と一緒に地域で暮らしていることを発信してゆく時期になっている。

8. 職員の育成および研修の取組

◆ 日頃からのコミュニケーションを大切に、

職員が醸し出す雰囲気は、センターの雰囲気にも影響します。日頃からのコミュニケーションを丁寧に行うことは、職員間の人間関係や、センターの雰囲気づくりや居心地のよさにつながると考えます。研修については、今年度も常勤・非常勤ともに、内外の研修に参加し、スキルアップと新しい視点を取り入れるよう努めました。

1) 現場訪問

- ・ 市民活動や地域活動の現場に出向く機会を大切にしました。
- ・ これらを職員間で共有する機会を設け、相談対応力やコーディネート力のアップを図りました。

2) 相談力向上に向けた研修の実施（再掲）

- ・ 職員全員で行う会議において、定期的に、最近 1 か月で行った相談対応の中の、気になる事例をピックアップして職員間で共有しました。実際に行った対応が良かったかどうか、もっと違う対応はできなかったか等職員間で話し合うことで、職員相互の意識のずれや認識のずれを修正し、より良い相談対応ができるよう取り組みました。
- ・ 職員研修において、相談対応における基本の 3 つのステップ（インテーク、コーディネート、クロージング）を再確認し、さらなる相談力向上を図りました。

3) 防災・減災、防犯、個人情報保護などに対応した研修の実施

- ・ 個人情報保護に関する研修は、全員が必ず年 1 回以上参加し、さらに、日々の業務の中における情報漏えいを起こさない仕組みを全員会議で点検しました。（2017/4/25 実施）
- ・ AED や心肺蘇生法の研修を全員が年 1 回受ける機会を設けました。（2018/2/27 実施）
- ・ HUG 避難所運営研修に参加し、災害時対応について学びました。（2017/6/13 参加）

4) 他区の区版支援センターとの情報交換および交流、研修への参加

- ・ 横浜市民局市民活動支援課・教育委員会が実施する研修および、ネットワーク会議に参加し、他地域の先進事例を学びあい、積極的に情報交換を行いました。
- ・ 相鉄沿線 6 区市民活動支援センター会議に参加し、連携を深めました。（年 1 回開催）
- ・ 他区のセンター（保土ヶ谷区・栄区・中区・港南区・戸塚区・緑区・青葉区）に見学に行き、事業展開の方法や相談対応方法について、またセンター内の掲示物や配架方法の工夫について学ぶ機会をつくりました。

5) 外部研修への参加

- ・ 各職員が、外部研修に参加するなどしてスキルアップを図る機会を積極的に設けました。（参加研修 64 件）

9. 西区役所との協働

◆ 地域振興課および関係課とのさらなる連携をすすめました

センターが、「区民のつながりを育み、力を活かしあう地域協働の総合拠点」となるべく、地域振興課を中心とした区役所との協働をすすめました。

1) 地域振興課と日常的な情報共有や「定例会議」を通し、お互いの成果や課題を丁寧に共有

- ・ 「定例会議」は毎月 1 回実施し、1 月間の各事業について進捗状況や課題などを共有しました。
- ・ 日常的にもこまめな「報・連・相」を互いに実施し、よりよいセンター運営を目指しました。

2) 協働契約書を締結し、センターの事業目的の共有と双方の強みを活かした運営で協働

- ・ 協働契約書を締結し、センターの目的、双方の役割などを確認しました。
- ・ 区役所と民間である当法人の強みを生かし、相乗効果が得られるような運営を目指しました。
- ・ 区役所と当法人役員の意見交換の場を設け、センターの方向性を共有しました。

3) 地域振興課と当法人事務局長及びセンター長との「組織会議」を実施

- ・ 地域振興課と当法人事務局長及びセンター長による「組織会議」を四半期毎に開催しました。
- ・ センター運営状況や組織が一体となって運営していることをお互いに理解し共有し、さらなる信頼関係の構築とセンター運営の方向性を確認しました。

4) 西区役所関係課や他機関との連携による事業の実施

- ・ 事業の企画や実施において、地域振興課とセンターのみならず、内容に応じて、関係課や他の支援機関と連携・協働することで、さらに充実した事業の実現につなげました。

5) センター運営に関する協働のふりかえりの実施

- ・ 年度終了後に、「協働に関する相互検証シート」をお互いに作成し、にしとも広場の運営を協働で取り組んだことに関して振り返りを行いました。



認定特定非営利活動法人市民セクターよこはま

2017年度

決 算 書

1. 活動計算書
2. 貸借対照表
3. 財務諸表の注記
4. 財産目録
- (参考) 予算・決算比較表
5. 監査報告書

法人名： 特定非営利活動法人 市民セクターよこはま

活動計算書

2017 年 4 月 1 日 ～ 2018 年 3 月 31 日 まで

(単位:円)

科 目	金 額		
I 経常収益			
1. 受取会費			
正会員受取会費	219,000		
準会員受取会費	12,000		
賛助会員受取会費	33,000	264,000	
2. 受取寄付金			
受取寄付金	91,777	91,777	
3. 受取助成金			
助成金収益	900,000	900,000	
4. 事業収益			
自主事業収益	24,102,953		
受託事業収益	73,608,012	97,710,965	
5. その他収益			
受取利息	475		
雑収益	427,798	428,273	
経常収益計			99,395,015
II 経常費用			
1. 事業費			
(1)人件費			
給料手当	38,019,305		
賞与	7,732,426		
法定福利費	5,659,431		
通勤手当	2,588,919		
福利厚生費	686,517		
人件費計	54,686,598		
(2)その他経費			
売上原価	1,100		
講師謝礼金	7,525,736		
業務委託費(調査等)	2,026,549		
業務委託費(顧問報酬)	895,795		
ボランティア謝金	174,841		
旅費交通費	1,189,574		
通信・運搬費	2,483,801		
印刷・製本費	4,230,604		
消耗品費	1,482,831		
事務所家賃	1,481,138		
水道光熱費	97,371		
支払手数料	254,129		
リース料	1,417,260		
保険料	21,920		
会場費・イベント費	730,441		
研究・研修費等	327,184		
資料代	196,236		
修繕費	197,208		
警備料	668,736		
広告宣伝費	950,750		
新聞図書費	1,138,989		
支払助成金	36,000		
租税公課	4,983,314		
交際費	210,779		
諸会費	120,000		
雑費	578,863		
減価償却費	632,976		
支払利息	41,508		

貸倒繰入額	43,900		
その他経費計	34,139,533		
事業費計		88,826,131	
2. 管理費			
(1) 人件費			
給料手当	56,852		
法定福利費	11,991		
通勤手当	177,839		
人件費計	246,682		
(2) その他経費			
業務委託費(顧問報酬)	37,325		
旅費交通費	12,016		
通信・運搬費	25,089		
印刷・製本費	42,733		
消耗品費	14,978		
事務所家賃	61,714		
水道光熱費	4,057		
リース料	14,316		
保険料	0		
支払手数料	10,589		
会場費・イベント費	23,359		
寄付金	18,777		
減価償却費	26,374		
諸会費	5,000		
雑費	24,119		
その他経費計	320,446		
管理費計		567,128	
経常費用計			89,393,259
当期経常増減額			10,001,756
Ⅲ 経常外収益			
貸倒引当金戻入		30,500	
経常外収益計			30,500
Ⅳ 経常外費用			
固定資産除却損		0	
経常外費用計			0
税引前当期正味財産増減額			10,032,256
法人税・住民税および事業税			893,800
当期正味財産増減額			9,138,456
前期繰越正味財産額			25,618,240
次期繰越正味財産額			34,756,696

法人名： 特定非営利活動法人 市民セクターよこはま

貸借対照表

2018 年 3 月 31 日現在

(単位:円)

科 目	金 額		
I 資産の部			
1. 流動資産			
現金預金	38,788,152		
未収金	7,336,133		
貸倒引当金	△ 43,900		
棚卸資産	322,899		
前払費用	30,380		
流動資産合計		46,433,664	
2. 固定資産			
(1) 有形固定資産			
工具器具備品	964,369		
有形固定資産計	964,369		
(2) 投資その他の資産			
差入保証金	258,096		
長期前払費用	72,639		
投資その他の資産計	330,735		
固定資産合計		1,295,104	
資産合計			47,728,768
II 負債の部			
1. 流動負債			
未払金	5,819,634		
未払費用	3,034,067		
預り金	329,471		
前受金	6,000		
仮受金	291,600		
未払法人税等	893,800		
未払消費税等	2,597,500		
流動負債合計		12,972,072	
2. 固定負債			
固定負債合計		0	
負債合計			12,972,072
III 正味財産の部			
前期繰越正味財産		25,618,240	
当期正味財産増減額		9,138,456	
正味財産合計			34,756,696
負債及び正味財産合計			47,728,768

財務諸表の注記

1. 重要な会計方針

財務諸表の作成は、NPO法人会計基準(2010年7月20日 2017年12月12日最終改正 NPO法人会計基準協議会)によっています。

(1) 棚卸資産の評価基準及び評価方法

棚卸資産の評価基準は、原価基準により評価方法は最終仕入原価法によっています。

(2) 固定資産の減価償却の方法

有形固定資産は、法人税法の規定に基づいて定率法で償却をしています。

(3) 消費税等の会計処理

消費税等の会計処理は、税込経理方式によっています。

2. 固定資産の増減内訳

固定資産の増減は以下の通りです。

(単位:円)

科 目	期首取得価額	取得	減少	期末取得価額	減価償却累計額	期末帳簿価額
有形固定資産						
工具器具備品	1,577,124			1,577,124	△ 612,755	964,369
合 計	1,577,124	0	0	1,577,124	△ 612,755	964,369

3. 役員及びその近親者との取引の内容

役員及びその近親者との取引は以下の通りです。

(単位:円)

科 目	財務諸表に計上された金額	内役員との取引	内近親者及び支配法人等との取引
印刷製本費	4,273,337	443,119	
活動計算書計	4,273,337	443,119	0

4. 支払助成金内訳(寄付金の使いみち)

皆様から寄せられた寄付金は、市民まちづくり応援ファンドとして、今期は1団体に計3万6千円を助成しました。

財産目録

2018 年 3 月 31 日現在

(単位:円)

科 目	金 額		
I 資産の部			
1. 流動資産			
現金預金			
横浜市市民活動支援センター小口	204,720		
にしく市民活動支援センター小口	30,414		
市民活動支援センター窓口	30,000		
その他小口現金	330,112		
横浜銀行 (管理通帳)	1,814,417		
横浜銀行 (支援センター)	12,402,837		
横浜銀行 (事業通帳)	10,097,415		
横浜銀行 (にしく支援C通帳)	6,424,131		
横浜銀行	0		
ゆうちょ銀行	1,453,974		
横浜銀行定期預金	6,000,132		
現金預金計	38,788,152		
未収金			
横浜市都筑区シニアスター養成講座企画・開催委託費	1,189,188		
横浜市神奈川区地域づくり大学校横浜市負担金	1,219,503		
横浜小規模多機能居宅介護事業者連絡会 事務局業務	540,000		
横浜認知症サポーターキャラバン事業等受託費用4/4	1,290,600		
横浜都市都市整備局 まち普請事業運営費用	961,200		
横浜市泉区事例集製作費	895,104		
横浜あゆみ荘宿泊モニタリング実施料	280,800		
神奈川県共同募金 歳末たすけあい配分金	900,000		
その他	59,738		
未収金計	7,336,133		
貸倒引当金	-43,900		
棚卸資産			
書籍在庫	21,100		
災害時用備蓄品	301,799		
棚卸資産計	322,899		
前払費用			
施設賠償保険料・印刷代	30,380		
流動資産合計		46,433,664	
2. 固定資産			
(1)有形固定資産			
工具器具備品			
電話設備2件	964,369		
有形固定資産計	964,369		
(2)投資その他の資産			
差入保証金			
NGS横浜馬車道事務所 保証金	258,096		
長期前払費用			
NTTファイナンス割賦利息	72,639		
投資その他の資産計	330,735		
固定資産合計		1,295,104	
資産合計			47,728,768
II 負債の部			
1. 流動負債			
未払金			
市民活動支援センター 警備費・電話代等	102,240		
市民活動支援センター 電話機設備	614,628		

市民活動支援センター ホームページデザイン変更作業費	334,800		
市民活動支援センター ホームページリニューアルデザイン費用	216,000		
市民活動支援センター 印刷代	442,800		
市民活動支援センター 消耗品費・郵送費等	162,382		
にしく市民活動支援センター 印刷費・消耗品費等	286,275		
法人事務所 電話代・水道光熱費等	27,105		
社会保険料 3月分	1,868,772		
モニタリング委託料	246,240		
第三者評価業務委託料	401,312		
報酬・謝金等	940,142		
健康診断・通信費 他	176,938		
未払金計	5,819,634		
未払費用			
給与 3月分 等	3,034,067		
預り金			
源泉所得税(職員)	56,737		
源泉所得税(講師・調査員等)	146,254		
社会保険料	2,980		
住民税	123,500		
預り金計	329,471		
前受金			
H30年度会費(正会員2名分)	6,000		
仮受金			
評価費用 誤入金	291,600		
未払法人税等	893,800		
未払消費税等	2,597,500		
流動負債合計		12,972,072	
2. 固定負債			
固定負債合計		0	
負債合計			12,972,072
正味財産			34,756,696

法人名： 認定特定非営利活動法人 市民セクターよこはま

2017予算・決算 比較表

(単位:円)

科 目	2017予算	2017決算	差異(予算-決算)
I 経常収益			
1. 受取会費			
正会員受取会費	330,000	219,000	△ 111,000
準会員受取会費	21,000	12,000	△ 9,000
賛助会員受取会費	30,000	33,000	3,000
2. 受取寄付金			
受取寄付金	100,000	91,777	△ 8,223
3. 受取助成金			
助成金収益	950,000	900,000	△ 50,000
4. 事業収益			
自主事業収益	22,010,000	24,102,953	2,092,953
受託事業収益	77,044,000	73,608,012	△ 3,435,988
5. その他収益			
受取利息	5,000	475	△ 4,525
雑収益	300,000	427,798	127,798
経常収益計	100,790,000	99,395,015	△ 1,394,985
II 経常費用			
(1) 人件費			
給料手当(賞与・法定福利費・通勤手当含む)	59,500,000	54,246,763	△ 5,253,237
福利厚生費	600,000	686,517	86,517
人件費計	60,100,000	54,933,280	△ 5,166,720
(2) その他経費			
売上原価		1,100	1,100
講師謝礼金	7,900,000	7,525,736	△ 374,264
業務委託費(調査等)	1,460,000	2,026,549	566,549
業務委託費(顧問報酬)	970,000	933,120	△ 36,880
ボランティア謝金	182,000	174,841	△ 7,159
旅費交通費	1,200,000	1,201,590	1,590
通信・運搬費	2,600,000	2,508,890	△ 91,110
印刷・製本費	4,500,000	4,273,337	△ 226,663
消耗品費・備品費	1,800,000	1,497,809	△ 302,191
事務所家賃	1,590,000	1,542,852	△ 47,148
水道光熱費	120,000	101,428	△ 18,572
支払手数料	300,000	264,718	△ 35,282
リース料	1,400,000	1,431,576	31,576
保険料	31,000	21,920	△ 9,080
会場費・イベント費	900,000	753,800	△ 146,200
研究・研修費	500,000	327,184	△ 172,816
新聞図書・資料代	1,480,000	1,335,225	△ 144,775
修繕費	200,000	197,208	△ 2,792
警備料	669,000	668,736	△ 264
支払助成金	50,000	36,000	△ 14,000
租税公課(消費税等)	4,900,000	4,983,314	83,314
寄付金	25,000	18,777	△ 6,223
減価償却費	250,000	659,350	409,350
支払利息	42,000	41,508	△ 492

諸会費・雑費他	900,000	938,761	38,761
広告宣伝費	300,000	950,750	650,750
貸倒繰入額	0	43,900	43,900
その他経費計	34,269,000	34,459,979	190,979
経常費用 計	94,369,000	89,393,259	△ 4,975,741
当期経常増減額	6,421,000	10,001,756	3,580,756
Ⅲ 経常外収益			
貸倒引当金戻入	0	30,500	30,500
経常外収益計	0	30,500	30,500
Ⅳ 経常外費用			
繰延資産償却	0	0	0
固定資産除却損	0	0	0
経常外費用計	0	0	0
税引前当期正味財産増減額	6,421,000	10,032,256	3,611,256
法人税・住民税および事業税	800,000	893,800	93,800
当期正味財産増減額	5,621,000	9,138,456	3,517,456
前期繰越正味財産額	25,618,240	25,618,240	0
次期繰越正味財産額	31,239,240	34,756,696	3,517,456